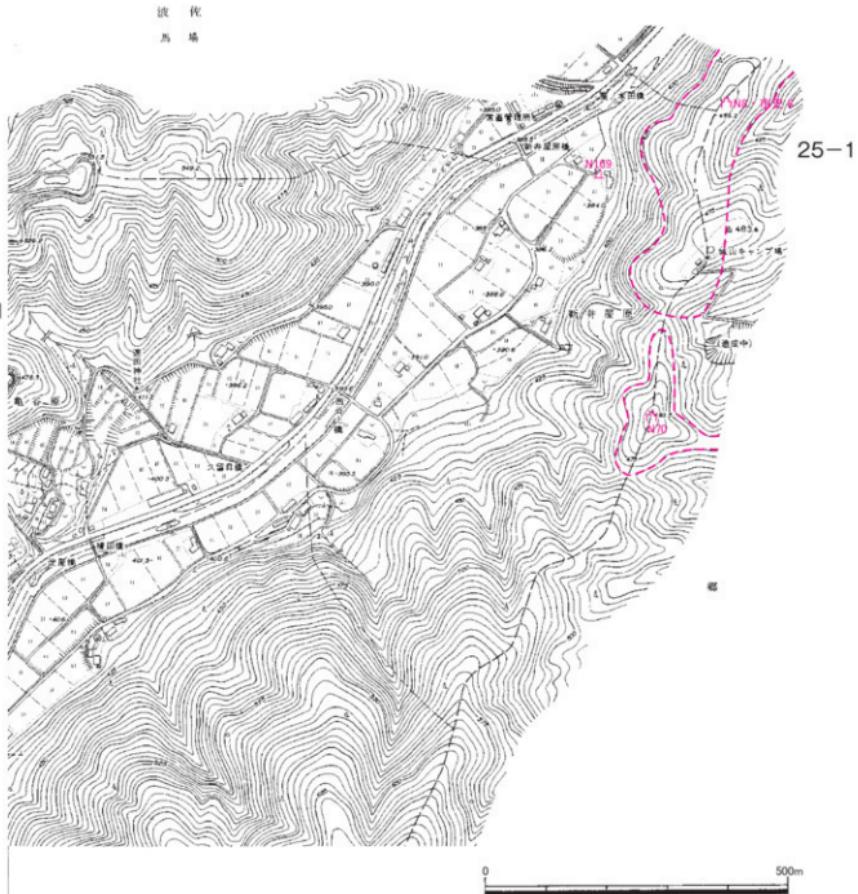


20-5

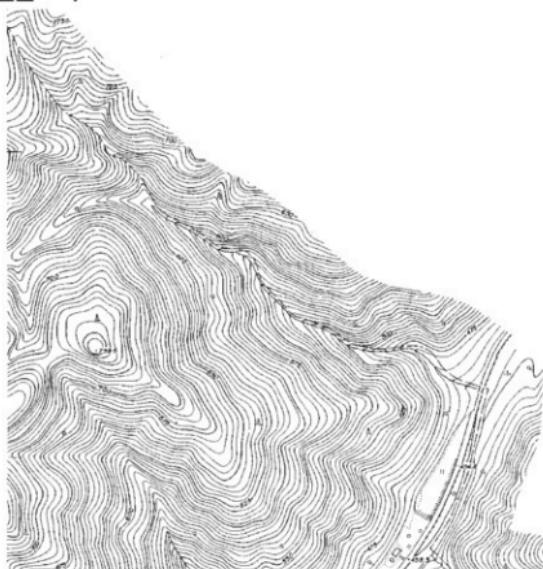
20-6

21-2



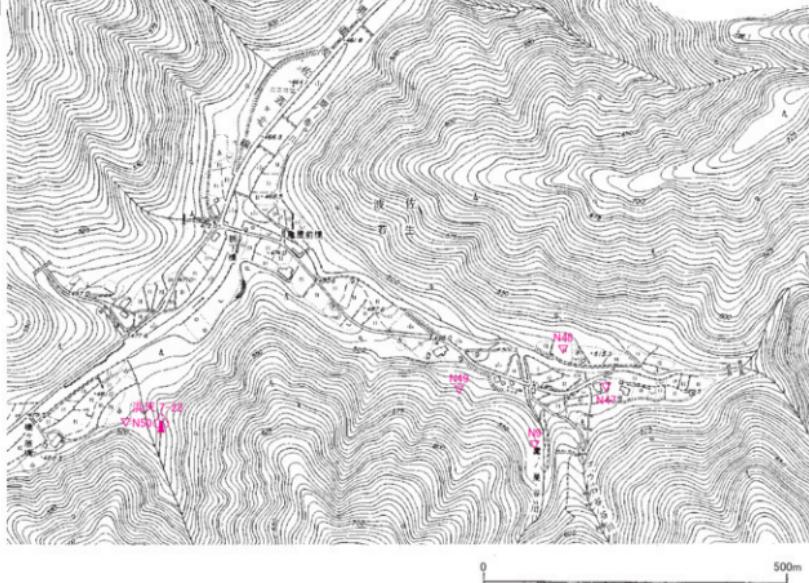
N8 波佐一本松城跡 (市史 8)    N70 水見城跡    N169 剣の墓

22-1

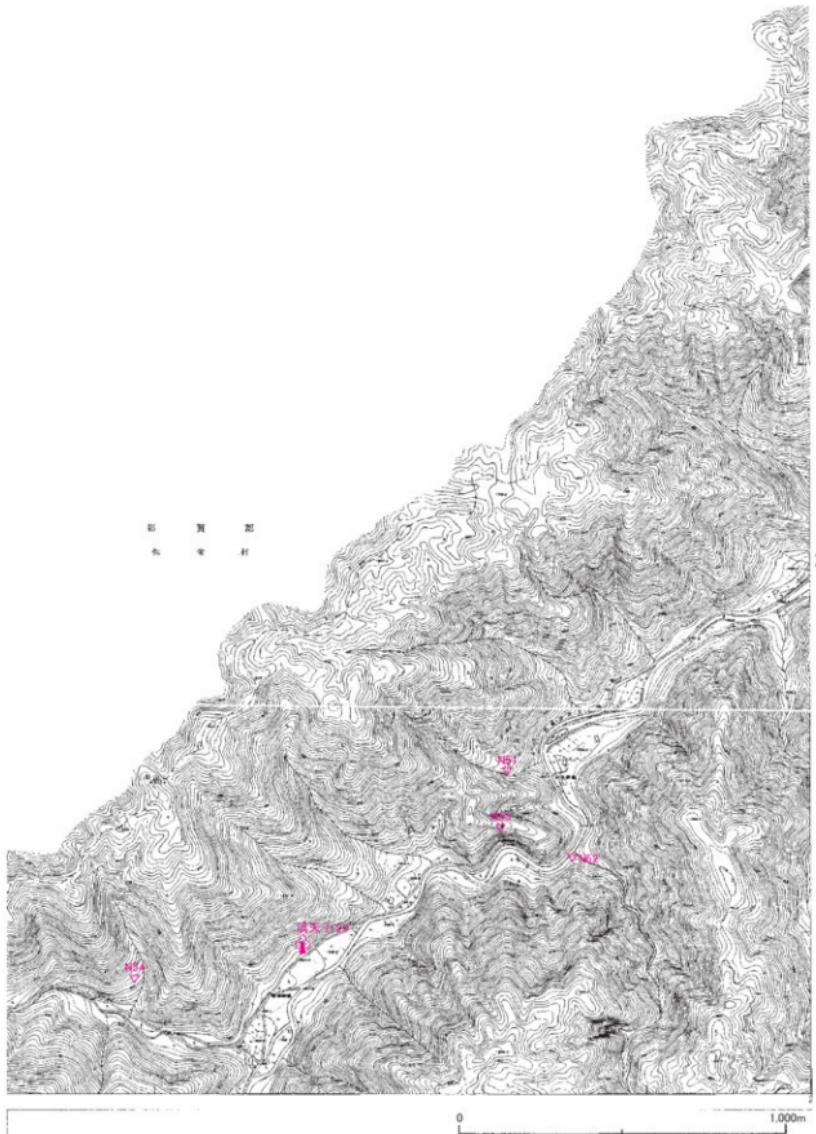


西谷上

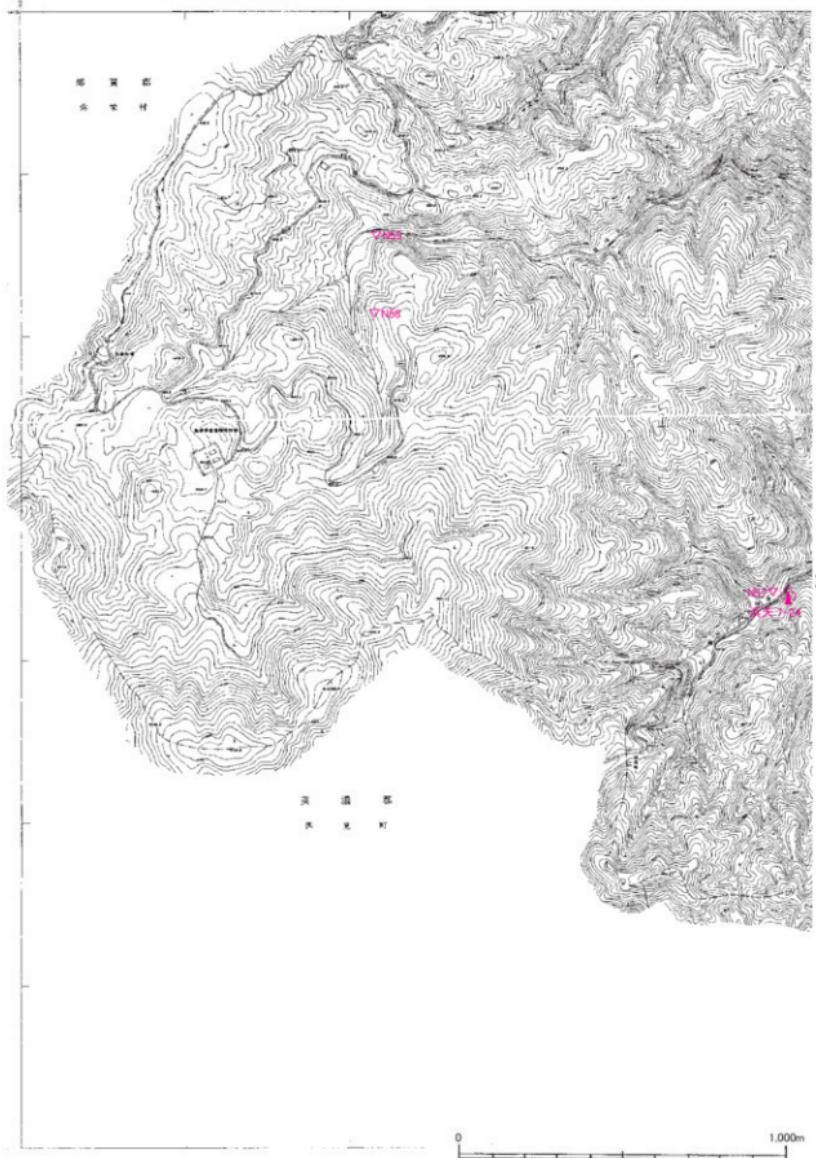
23-1



N9 横下Ⅰ鉢跡 N47 横下Ⅱ鉢跡 N48 横下Ⅲ鉢跡 N49 横下鍛冶屋跡 N50 宇谷鉢跡  
浜天7-22 若生のケヤキ巨樹群



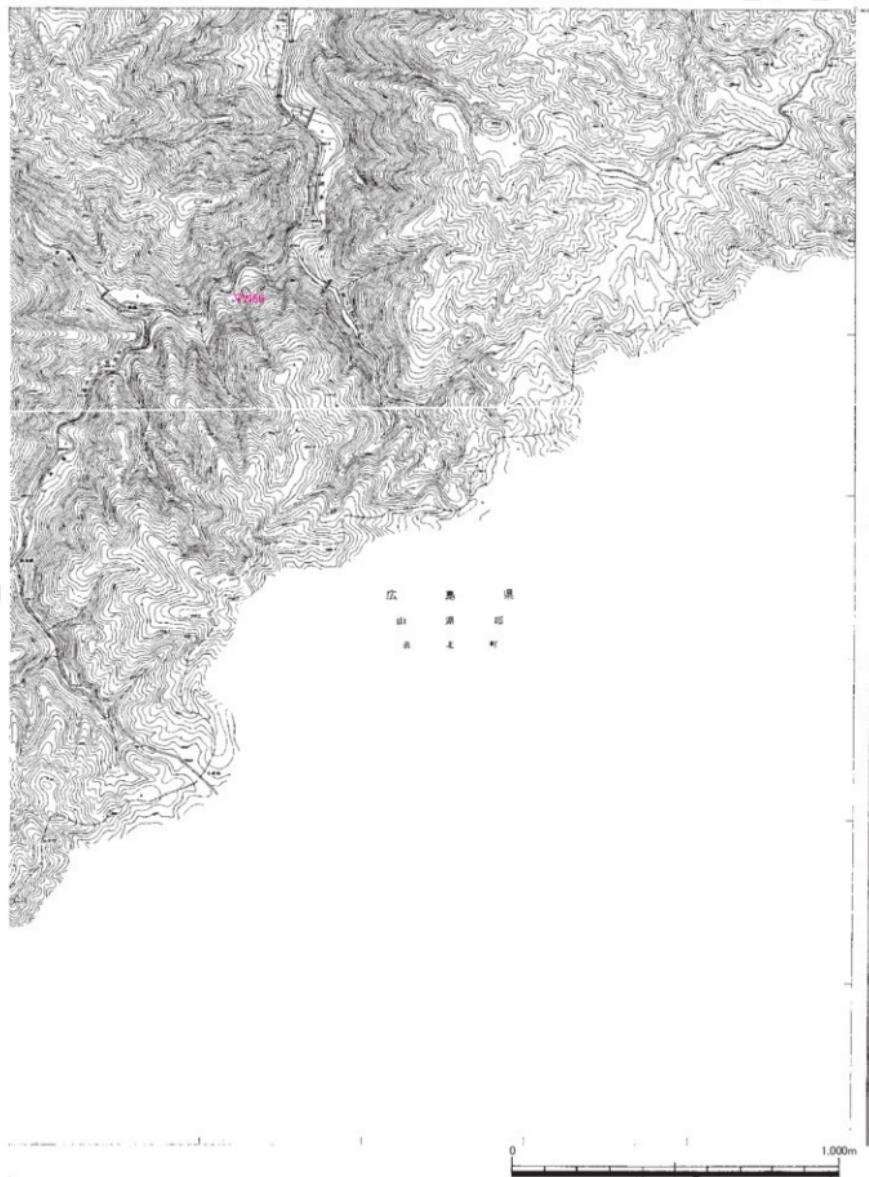
N51 ウナギ淵鉾跡 N52 来ル実鉾跡 N53 飯ノ山鉾跡 N54 打尾谷鉾跡  
浜天7-23 若生の大モミジ



N55 鍋滝 I 鉛跡    N57 鍋滝 III 鉛跡    N58 泊小屋鉄穴跡

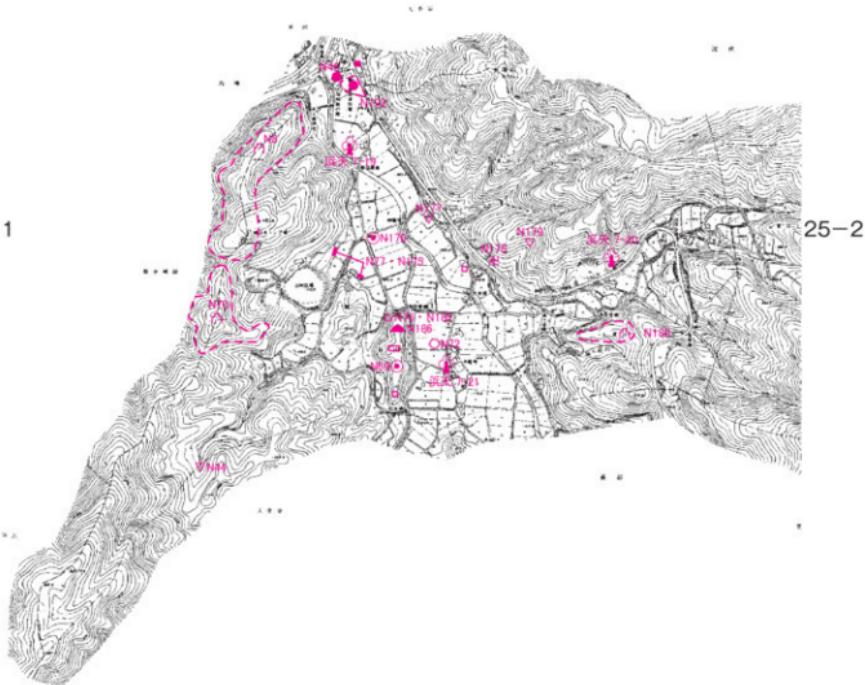
浜天7-24 鍋滝のカツラ

24-2



N56 鍋淹Ⅱ鉢跡

21-1



19-2

19-3

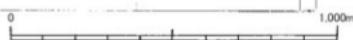
25-2

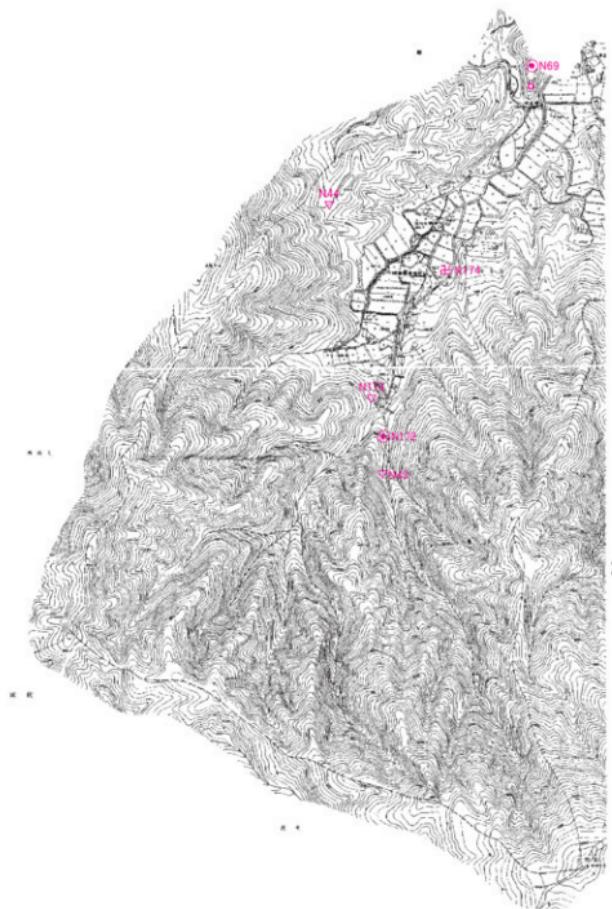
25-1

広島県  
山県市  
北町

26-2

N181 ダアダラ鉱跡 N187 黒瀬Ⅰ遺跡



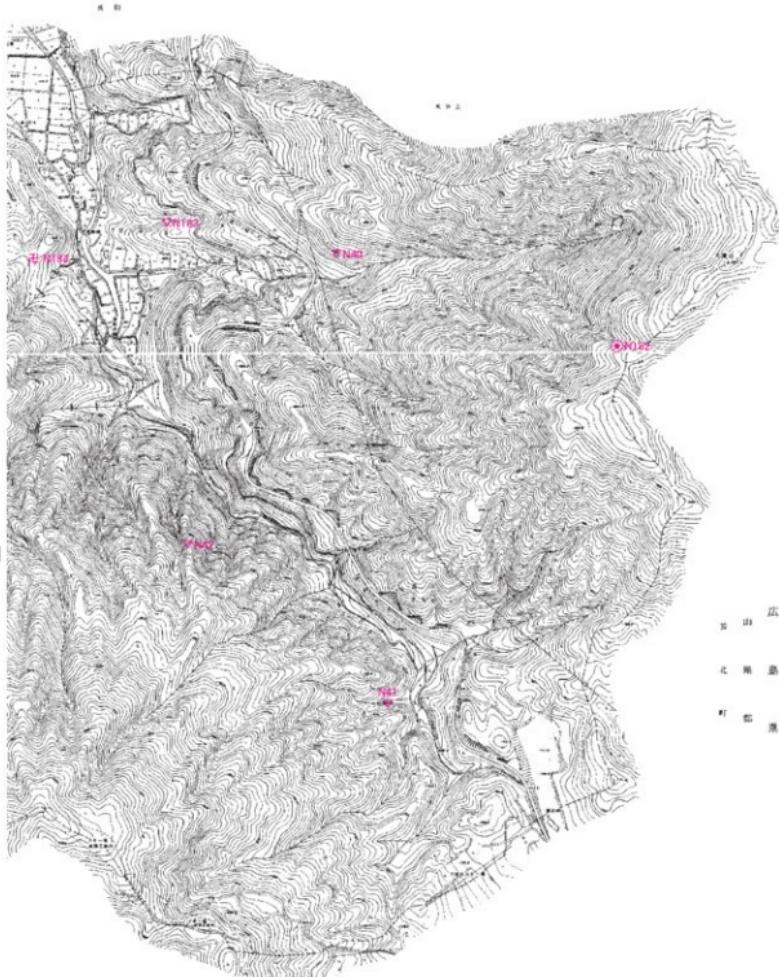


N43 表谷鉄穴跡    N44 丸迫鉄穴跡    N69 千年比丘遺跡    N172 八幡岩遺跡  
 N173 表谷鉢跡    N174 恵日山本覚寺跡

25-1

25-2

26-2



N40 大潰鉄穴跡 N41 勝示鉄跡 N42 トヤゴウ鉄穴跡 N182 傍示西平土壙  
N183 吹ヶ迫鉄跡 N184 寺田庵跡

## 金城 N (所在地の地番は金城町教育委員会 1986・1987 より作成・地籍調査による番地変更もある。)

番号	名 称	種 别	所 在 地	概 要	備 考
1 今福古墳	古墳	久佐 琥珀烟 ハ 32-1	円墳		消滅
2 金木城跡	城跡	上末原 金木城 907	山城		
3 田ノ原伊勢跡	製鉄道路	小国 勝場 585-3			消滅
4 小境ヶ谷伊勢跡	製鉄道路	小国 境ヶ谷 ハ 313	鉄穴流し		
5 金田古墳群	古墳	下末原 金田 2基			
- 1 金田 1 号墳	古墳	下末原 八歳ヶ原平 1334-3	円墳、横穴式石室、人骨、直刀、金環、須恵器、土師器	墳丘・出土品市指定	
- 2 金田 2 号墳	古墳	下末原 八歳ヶ原平 1334-3	鉄製直刀		
6 下長原古墳	古墳	下末原 河角七丁山 1082-3	円墳、横穴式石室、須恵器	消滅	
7 火坂平古墳	古墳	下末原 ヒカ平 1081-3	円墳、横穴式石室	半壇	
8 遠佐一本松城跡	城跡	波佐 城山 イ 1254	山城		波佐城跡、市指定
9 前下丁伊勢跡	製鉄道路	波佐 勝下原 イ 948 第 4	金池		
10 小国城跡	城跡	小国 最中山 イ 804	山城		
11 植ノ木道跡	散布地	小国 植ノ木山 イ 167-2	剪製石斧		
12 福原伊勢跡	製鉄道路	過原 カナツコ 1286			
13 乙明伊勢跡	製鉄道路	過原 入野 鈴ヶ道 1161			
14 大元伊勢跡	製鉄道路	過原 新御中之並 2003			
15 美又伊勢跡	製鉄道路	過原 道幸原 39-1			
16 藤ヶ谷伊勢跡	製鉄道路	七条 種田後 ロ 473-1			
17 吉留伊勢跡	製鉄道路	下末原 鈴ヶ道 1161			
18 青原伊勢跡	製鉄道路	下末原 椅ヶ谷 イ 779-1			
19 上末原伊勢跡	製鉄道路	上末原 蛇ノ谷農業 848-1			
20 高良谷伊勢跡	製鉄道路	久佐 高良貞 1198			
21 小原谷铁穴路	製鉄道路	久佐 高良貞 1198			
22 白甲 I 伊勢跡	製鉄道路	久佐 松尾屋 ロ 379			
23 白甲 II 伊勢跡	製鉄道路	久佐 白甲 ロ 26			
24 乙栗伊勢跡	製鉄道路	久佐 鉄穴ヶ境 ロ 482			
25 坂根 I 伊勢跡	製鉄道路	小国 表谷本塚 ハ 89			
26 坂根 II 伊勢跡	製鉄道路	小国 坂根門切 ハ 78			消滅
27 字栗道伊勢跡	製鉄道路	小国 嶺田 ハ 96			
28 作見谷铁穴路	製鉄道路	小作 作見谷 ハ 59			
29 逸原铁穴路	製鉄道路	小国 境ヶ谷 ハ 39-1	巨石群が散在		
30 桐ノ木铁穴路	製鉄道路	小国 銀ノ城 ハ 399-1	水路跡		
31 小原ヶ谷伊勢跡	製鉄道路	小国 伊佐木 ハ 346	金池		
32 小子山铁穴路	製鉄道路	小国 鐵穴 ハ 247	水路跡		
33 大利鐵治屋跡	製鉄道路	小国 大利 イ 518-1			
34 天尻リ伊勢跡	製鉄道路	波佐 天尻山口 ロ 108			
35 長沢伊勢跡	製鉄道路	波佐 長澤 イ 250			
36 伴道伊勢跡	製鉄道路	波佐 石仏有ノ木谷普済 イ 1189	天保 11 年開設		
37 黑瀬伊勢跡	製鉄道路	波佐 鈴木 イ 172	鈴場崎園面(明治 7 年)		
38 小松木铁穴路	製鉄道路	波佐 小松木 イ 1104	鉄穴水路跡、鈴場崎園面(明治 7 年)		
39 植ヶ谷曾根伊勢跡	製鉄道路	波佐 大白イ谷 イ 1111	鉄穴水路跡		
40 大演铁穴路	製鉄道路	長田 牛平岩 ハ 452	鉄穴水路跡		
41 轉示伊勢跡	製鉄道路	長田 轉示西平 ハ 467-1	天正元年開設		
42 トヤゴウ鉄穴路	製鉄道路	長田 鶴屋前 ハ 467	鉄穴水路跡		
43 表谷铁穴路	製鉄道路	長田 大井谷奥山 ロ 261	鉄穴水路跡		
44 丸道铁穴路	製鉄道路	長田 丸道谷山 ロ 286	鉄穴水路跡		
45 うの伊勢跡	製鉄道路	波佐 宇野原 ハ 759			
46 七瀬瀬 I 旗跡	製鉄道路	波佐	礪文土器、弥生土器物		発掘調査・旧称七瀬瀬遺跡
47 附下 I 伊勢跡	製鉄道路	波佐 勝下原 イ 948 第 2	金池		
48 附下 II 伊勢跡	製鉄道路	波佐 日ノ原平 イ 1207			
49 附下 鉄治屋跡	製鉄道路	波佐 勝下原 イ 943 第 2			
50 宇谷伊勢跡	製鉄道路	波佐 宇谷 イ 990			
51 ウナガ洞伊勢跡	製鉄道路	波佐 鈴ノ原 イ 1015			
52 茂若リ実伊勢跡	製鉄道路	波佐 茂若実 イ 1018			
53 脱ノ山伊勢跡	製鉄道路	波佐 脱ノ山 イ 1020			
54 扇谷伊勢跡	製鉄道路	波佐 宇津尾谷中 イ 1039			
55 鶴尾 I 伊勢跡	製鉄道路	波佐 泊山腰ヨリ西平字津尾谷			
56 鶴尾 II 伊勢跡	製鉄道路	波佐 西平	ハ 1319		
57 鶴尾 III 伊勢跡	製鉄道路	波佐 新居田平 イ 1316			
58 泊小原铁穴路	製鉄道路	波佐 瀬浦泊小原東原	弘化 3 年開設、金屋子神社		
59 猿ヶ馬場古墳	古墳	下末原 猿ヶ馬場 528-1	須恵器	埴丘坂塙	
60 本明城跡	城跡	入野 浅ヶ塙 1155	山城、郭、堀、土郭、石垣、井戸跡	乙明城跡、D 20 と同じ	
61 田代城跡	城跡	今福 田代山 1607			
62 佐佐古門道跡	散布地	下末原 佐佐古門田 852-1	須恵器(明き目)、土師器		
63 鶴田門道跡	散布地	上末原 下野田山 514	剪製石斧		
64 雲城山城跡	城跡	七条 椅ヶ谷 ハ 779-1	山城	L 217 と同じ	
65 火の道城跡	城跡	小国 火道城 ハ 433-2			
66 曽根墳墓	古墓	波佐 ニ切尻 497			
67 花城跡	城跡	波佐 城山 イ 1172	元龜元年落城	中谷城跡、姫ノ城跡	
68 植ヶ谷曾根遺跡	散布地	波佐 大白イ谷 イ 1111	剪製石斧		
69 千年比丘道跡	絆塀	長田 中山 ロ 287	約 3 m あまりの方形用石積み		
70 水見城跡	城跡	長田 丸道山 ロ 287			
71 榎松町の豊石路	その他	波佐 立派工 イ 1231	文化 8 年、全長 1200 m 津和野奥筋石運賃	市指定	
72 ナゴダ遺跡	散布地	長田	石斧、須恵器		
73 新屋久保伊勢跡	製鉄道路	上末原			
74 井口原伊勢跡	製鉄道路	上末原			
75 内津 I 伊勢跡	製鉄道路	過原 下ノ平 2328			
76 70 年比丘塚跡	窪塚	長田	瓦	N 185 と同じ、中曾根東平塚跡	
77 長田郷道跡	散布地	長田 鉄穴池 ロ 173 内 3 他	弥生土器、須恵器、礪文土器、陶磁	発掘調査・N 175 と同じ、城ノ前遺跡	

78	馬場庄跡	廻路	今田		
79	千元庄跡	廻路	七条		
80	今浦庄跡	廻路	下米原	瓦窯跡・明治 45 年頃	N 199 瓦ナイ谷窯跡より移転
81	大吉原庄跡	廻路	下米原		
82	みさわ窯跡	廻路	七条 新聞		
83	堂原寺跡	経塚	道原 セト 1730		
84	福田寺跡	寺院跡	道原 寺寺 328		
85	追原庄廻跡	廻路	道原 開氣 223		
86	段原廻跡	製鉄道路	宇津井 下モ田 952-1		
87	元谷廻跡	製鉄道路	今福 鉄穴口 1178		
88	藏福庵跡	寺院跡	今福 藏福庵 1193-1	薦芯 2 年安樂寺に合併	
89	境ヶ谷廻跡	製鉄道路	今福 境ヶ谷 906		
90	境ヶ谷鉄穴跡	製鉄道路	今福 境ヶ谷上 1, 1747		
91	笠松城跡	城跡	今福 境ヶ谷セド山 1684		
92	月久庵跡	寺院跡	今福 月久山 1609		
93	合合廻跡	製鉄道路	今福 門運 647		
94	曾合鐵治屋跡	製鉄道路	今福 曽ガセ 1606		
95	田代廻跡	製鉄道路	今福 新宅 624		
96	瀧ガセ II 廻跡	製鉄道路	今福 瀧ガセ 1606-9		
97	瀧ガセ I 廻跡	製鉄道路	今福 瀧ガセ 1606-9		
98	小松原山皆跡	城跡	今福 小松原山 1588-3		
99	岩塚 I 庄跡	散布地	今福 八ツ割 368-2		
100	岩塚 I 廻跡	製鉄道路	今福 宮ノ向イ 1451		
101	岩塚 II 庄跡	散布地	今福 蔵ノ脇 253-1	発掘調査	
102	岩塚 II 廻跡	製鉄道路	今福 岩原 158		
103	久佐代官所跡	役所跡	久佐 役所烟 イ 1124	明治 5 年の地震により倒壊、近傍の 降尊寺に代官の墓	
104	白甲廻跡	製鉄道路	久佐 釣ロ 60		
105	白甲 I V 廻跡	製鉄道路	久佐 松尾谷 ロ 379		
106	白甲 V 廻跡	製鉄道路	久佐 松尾谷 ロ 379		
107	白甲原廻跡	製鉄道路	久佐 松尾谷 ロ 379		
108	白里廻跡	製鉄道路	久佐 松尾谷 ロ 379		
109	金光寺跡	寺院跡	久佐 寺田 ロ 115		
110	白甲磯廻跡	製鉄道路	久佐 白甲 ロ 26		
111	白甲坂廻跡	製鉄道路	久佐 白甲 ロ 26		
112	白甲又廻跡	製鉄道路	久佐 白甲 ロ 26		
113	白甲 X I 廻跡	製鉄道路	久佐 白甲 ロ 26		
114	崩神廻跡	製鉄道路	久佐 嶺神 楠 369		
115	ナメラ廻跡	製鉄道路	久佐 ナメラセトイ 1213		
116	長谷廻跡	製鉄道路	久佐 梅床屋 1261		
117	廢空廃	寺院跡	下米原 施羅敷 549	約 100m の平地	
118	金田廻跡	製鉄道路	下米原 中堅敷上 555-3		
119	金田庄廻跡	廻路	下米原 土居 584-1	石垣、庭園、池、廻路跡	
120	吉留鐵治屋跡	製鉄道路	下米原 加藤太夫 1344		
121	吉留寺跡	寺院跡	下米原 葉葉堂 474 続 1	三段構造、三段目に井戸	
122	戈ヶ迫廻跡	製鉄道路	下米原 戈ヶ境 1327		
123	金屋平治治屋跡	製鉄道路	下米原 金屋平 1366		
124	茶園ヶ浴鉄穴跡	製鉄道路	下米原 茶園ヶ塙 1288-1	鉄穴水路跡、鉄穴溝	
125	吉留御宿跡	城跡	下米原 古城ヶ塙 1364-1	二段の廻転、古井戸	
126	二反田經塚	経塚	上米原 二反田山下平 985	田石山積み	
127	大谷鐵治屋跡	製鉄道路	上米原 松ヶ塙 650 円 3		
128	唐谷鐵治屋跡	製鉄道路	七条 七条町 ロ 35		
129	伊木廻跡	製鉄道路	七条 七条町 ロ 108		
130	角屋廻跡	製鉄道路	七条 游場 イ 276	水溜用の堤防、用水路 4km	
131	笠局廻跡	廻路	七条 斎局跡 イ 139	石垣、建物のカズク石、廻転	
132	山根谷廻跡	製鉄道路	七条 ヨシケイタ 1, 285-1		消滅
133	青ヶ原廻跡	製鉄道路	七条 蘭原ヶ谷 イ 799-6		
134	上の谷廻跡	製鉄道路	七条 上ノ塙 イ 284		
135	木原谷鉄穴跡	製鉄道路	上米原 奥田ヤ 793-1		
136	東鏡治屋跡	製鉄道路	上米原 瑞山 903		
137	大利廻跡	製鉄道路	小国 大折奥平 イ 859-12		
138	長沢廻跡	製鉄道路	小国 用平 イ 640		
139	堂屋敷廻跡	製鉄道路	小国 堂屋敷 イ 855		
140	正念寺跡	寺院跡	小国 古屋敷 1905-1		
141	森ヶ谷廻跡	製鉄道路	小国 森ヶ谷 イ 12		
142	久佐谷廻跡	製鉄道路	小国 久佐谷 イ 2		
143	惣田經塚	経塚	小国 京坂 ロ 323		
144	桃源寺跡	寺院跡	小国 前原敷 イ 305-5		
145	篠木 I 廻跡	製鉄道路	小国 篠木 ハ 169	金池	
146	篠木 II 廻跡	製鉄道路	小国 篠木 ハ 168	金池	
147	因津廻跡	製鉄道路	道原		
148	雲月古浴場跡	その他	小国 雲月 ハ 392		
149	湯笛 I 廻跡	製鉄道路	波佐 鈴子 イ 11		
150	湯笛 II 廻跡	製鉄道路	波佐 篠ヶ原 イ 44		
151	湯笛鐵治屋跡	製鉄道路	小国 片ヶ原 イ 703		
152	夏焼廻跡	製鉄道路	小国 夏焼		
153	膳尾廻跡	製鉄道路	波佐 剣ヶ谷 イ 1133		
154	不來ヶ原廻場跡	その他	波佐 不來原 イ 270		
155	善長寺跡	寺院跡	波佐 床寺 イ 299	五輪塔	
156	湊谷鉄穴跡	製鉄道路	波佐 鉄穴 イ 1164	鉄穴水路跡	
157	湊谷 I 廻跡	製鉄道路	波佐 剣ノ塙 イ 331		
158	湊谷 II 廻跡	製鉄道路	波佐 矢倉町 イ 333		
159	夜無廻跡	製鉄道路	波佐 夜無 イ 351		
160	地主鉄穴跡	製鉄道路	波佐 手背戸山 イ 1179	鉄穴水路跡	
161	大人廻跡	その他	波佐 石舟有木木曾沢 イ 1189	足形を削した巨石	

162	アンの木鉄六跡	製鉄遺跡	波佐 有ノ木谷資訊 イ 1189-61
163	釣ヶ谷跡	製鉄遺跡	波佐 釣ヶ谷 イ 1133
164	音沢庄屋跡	居敷跡	波佐 音沢 イ 491
165	アンの木前遺跡	散布地	波佐 有の木前ノ切 イ 507
166	波佐代官所跡	役所跡	波佐 舞喜多 イ 5
167	常磐山の的場	その他の遺跡	波佐 常磐山 イ 1195
168	千代鶴子遺跡	その他の遺跡	波佐 千代鶴子 イ 555
169	朝の墓	古墓	波佐 王子ノロ イ 1261
170	千人塚	古墓	波佐 谷川 イ 664
171	釜町剣跡	製鉄遺跡	波佐 釜町 イ 678-2
172	八幡岩遺跡	その他の遺跡	長田 八幡岩数 口 260
173	表谷剣跡	製鉄遺跡	長田 カジヤ床 口 86
174	恵日山本覚寺跡	寺院跡	長田 上引寺 イ 58
175	城ノ前遺跡	散布地	長田 城ノ前 イ 101 他
176	田原庄垣跡	居敷跡	長田 田原 口 228
177	堂ヶ原跡	製鉄遺跡	長田 堂ヶ原 イ 42
178	正古窯跡	守院跡	長田 正古窯 イ 60
179	正古窯跡六跡	製鉄遺跡	長田 窯穴窯 イ 395
180	長田城跡	城跡	長田 長田 イ 69
181	ダアグラ跡	製鉄遺跡	長田 駒町 イ 106
182	傳示西平土塁	その他の遺跡	長田 傳示西平 イ 467
183	吹ヶ追跡	製鉄遺跡	長田 吹ヶ追 イ 263
184	寺田庵跡	寺院跡	長田 寺田 イ 270
185	中曾根東平原跡	窯跡	長田 中曾根東平
186	千年比丘古墳群	古墳	長田 中山
187	黒瀬Ⅰ遺跡	散布地	波佐
188	馬場遺跡	散布地	波佐
189	草ノ城跡	城跡	今福
190	凌見城跡	城跡	久佐
191	雲井城跡	城跡	久原
192	七瀬瀬Ⅱ遺跡	集落跡	波佐
193	浜田広島街道	街道跡	浜田広島街道
194	津和野奥筋往還	街道跡	浜田街道跡
195	鹿森跡	窯跡	上久佐
196	岡本窯跡	窯跡	七条
197	くはき窯跡	窯跡	下末原
198	調ナイ谷窯跡	窯跡	下末原
199	家床強道跡	街道跡	今福
200	オイト谷遺跡	街道跡	今福

## 主要参考文献

- 藤岡大拙他編 1980『日本城郭大系』第14巻 烏取・鳥根・山口 新人物往来社
- 山陰中央新報社 1981『島根県大百科事典』上巻・下巻
- 金城町教育委員会 1983『金城町の文化財第1集一町内の古墳一』
- 島根県教育委員会 1985『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 日本道路公団広島建設局・島根県教育委員会 1985『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 金城町教育委員会 1986『島根県那賀郡金城町遺跡調査詳細分布調査報告書1 一波佐・長田地区』
- 島根県教育委員会 1986『島根県生産遺跡分布調査報告書』
- 島根県教育委員会 1987『島根県製鉄遺跡分布調査報告書』
- 金城町教育委員会 1987『島根県那賀郡金城町遺跡調査詳細分布調査報告書II』
- 金城町教育委員会 1987『七瀬瀬遺跡発掘調査報告書』
- 金城町教育委員会 1989『八幡岩遺跡』
- 寺井毅 1991『石見福屋氏の桜尾城・松山城・波佐一本松城跡の歴史状況群についての考察』『島根考古学会誌』第8集 島根考古学会
- 金城町教育委員会 1993『金城町の巨樹50選』
- 金城町教育委員会編 1994『波佐』(島根県那賀郡金城町波佐地区における考古学的調査)
- 島根県教育委員会 1997『島根県近世城館分布調査報告書<第1集>石見の城館跡』
- 波佐文化協会 1998『金城の風土記』
- 島根県教育委員会 1998『歴史の道調査報告書 津和野廿日市街道・津和野奥筋往還』島根県歴史の道調査報告書第六集
- 島根県教育委員会 1999『歴史の道調査報告書 浜田広島街道・浜田三次往還』島根県歴史の道調査報告書第九集
- 島根県教育委員会 2002『島根県遺跡地図II(石見編)』
- 金城町 2003『金城町誌』第6巻
- 樹林舎 2006『定本 島根県の歴史街道』
- 樹林舎 2006『島根県歴史街道地図』
- 浜田市教育委員会 2008『史跡・周布古墳・蔵地宅後古墳・市史跡 金田1号墳』
- 浜田市教育委員会 2008『唐谷坂道』

## 浜田市内指定文化財一覧(地図番号は浜田・金城自治圏)

地図番号	道路番号	番号	区分	指定年月日	名称	所在地	所有者・保持者
【国指定文化財】							
		1	彌刻	大. 9. 4.15	木造阿弥陀如来立像	松原町	心覚院
		2	工芸技術	昭 44. 4.15	石州半藏	三隅町古市場	石州半藏技術者会
		3	有形民俗文化財	昭 46.12.15	波佐の山村生産用具	金城町波佐	西中国山地民具を守る会
国史1	L6	4	史跡	大 10. 3. 3	石見国分寺跡	国分町 402-1 (道)	1524-1. 1536.1527.1527 縦 11528-11528-2 1528-4.1530.1531.1534-1.1534-2.1548-1.
国史2	L49	5	史跡	昭 11.12.16	周布古墳	治和町口 1009-1	個人
国史3	L13	6	史跡	昭 12. 6.15	下府庵寺塔跡	下府町 632-4	浜田市
		7	天然記念物	昭 7. 3.25	石見盤ヶ浦	国分町 1187-1.1197-1.1982-1. 1982-2.1983.1984. 1985-1.1985-2. 1986.1987.1988. 1989-1.1989-2.1989-3. 1989-4.2307-1.2307-2.2308. 2309-1. 2309-2.2309-3. 2309-4.2210-1.2210-2. 2210-3.2210-4.2210-5.2210-6.2210-7. 2210-8.2210-9.2210-10.2210-11. 2210-12.2210-13	国・市・民
		8	天然記念物	昭 10. 4.11	三隅大平桟	三隅町矢原	個人
【鳥取県指定文化財】							
		9	彌刻	昭 47. 7.28	絵本阿彌陀大麻山縁起	三隅町室谷	大麻山神社
		10	彌刻	昭 37. 6.12	木造阿彌陀童子立像	三隅町三隅	正法寺
		11	彌刻	昭 42. 5.30	木造阿彌陀群	生湯町	多陀寺
		12	彌刻	昭 43. 6. 7	木造阿彌陀如來坐像	三隅町三隅	正法寺
		13	青銅	昭 37. 6.12	木造阿彌陀大般若經	三隅町芦谷	徹雲寺
		14	古文書	平 12. 3.28	紙本着色金冠御園	黒川町 浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		15	考古資料	昭 35. 9.30	人のこみ石遺出品	治和町	個人
		16	有形民俗文化財	昭 47. 7.28	波佐の山村生活用具	金城町波佐	西中国山地民具を守る会
		17	無形民俗文化財	昭 37. 6.12	丹野舞楽	三隅町丹野	井伊神楽保持者会
		18	無形民俗文化財	昭 39. 5.26	有福舞楽	下有福町	有福神楽保持者会
		19	無形民俗文化財	昭 40. 4. 1	黒鳴子田	三隅町黒沢	黒鳴子田保存会
県史1	L7	20	史跡	昭 33. 8. 1	石見国分尼寺跡	国分町 216217-225-5.1898-1.1898-2. 1898-3	国分寺
県史2	L27	21	史跡	昭 37. 6.12	浜田城跡	駿河町 123-1.123-6.123-10.131-1.131-4	浜田市
県史3	L5	22	史跡	昭 42. 5.30	石見国分寺瓦窯跡	国分町 408-1	浜田市
県天1		23	天然記念物	昭 41. 5.31	貴長石霞石玄武岩	長浜町 276-1	個人
県天2		24	天然記念物	昭 47. 3.31	常磐山の杉	熱田町 1319-1	個人
		25	天然記念物	昭 47. 3.31	長安本郷の八幡宮並木	内田町 625 内 1	個人
【浜田市指定文化財】							
		26	絵画	昭 44.11. 3	板絵着色瀬戸ヨケウ鳥捕鮎図	瀬戸ヶ鳥町	戦鳥神社
		27	絵画	昭 48. 5. 1	朝本阿彌陀石門頭祖	清水町	洞泉寺
		28	絵画	昭 48. 5. 1	朝本阿彌陀石壓縁図	周布町	淨洲寺
		29	絵画	昭 48. 5. 1	無題 藤谷忠筆油絵麻布	黒川町	浜田高等学校同窓会
		30	絵画	昭 48. 5. 1	無題 小林萬吉筆油絵麻布	野原町 浜田市世界こども美術館	浜田市
		31	絵画	昭 56. 3.28	空雲華翠十三佛画幅	三隅町芦谷	徹雲寺
		32	絵画	平 14. 2.22	紙本着色厄禪図	田町	龍泉寺
		33	絵画	平 14. 2.22	鶴筋絵	瀬戸ヶ鳥町	戦鳥神社
		34	彌刻	昭 51. 3.25	木造阿彌陀白川宮能久親王殿下立像	黒川町 浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		35	彌刻	平 7. 3.28	木造阿彌陀如來坐像	三隅町芦谷	徹雲寺
		36	彌刻	平 7. 3.28	木造阿彌陀如來立像	三隅町漆浦	樂樂寺
		37	工芸品	昭 44.11. 3	彌彌	久代町	石見安達美術館
		38	工芸品	昭 44.11. 3	太刀	久代町	石見安達美術館
		39	工芸品	昭 48. 5. 1	太刀	駿町	浜田護國神社
		40	工芸品	昭 51. 3.25	刀 4. 4	久代町	石見安達美術館
		41	工芸品	昭 56. 3.28	古阳神社尊仏	三隅町上古和	個人
		42	工芸品	平 14. 2.22	和柄阿形型	瀬戸ヶ鳥町	戦鳥神社
		43	工芸品	平 14. 2.22	猪木利精奶奶親二枚胴具足圓鉢兜付	野原町 浜田市世界こども美術館	浜田市
		44	古跡	昭 48. 5. 1	紙本着色大般若經	大辻町	宝福寺
		45	古跡	昭 56. 3.28	御紙本着色金剛經	三隅町芦谷	徹雲寺
		46	典籍	昭 44.11. 3	紙本着色巻宗雄著書	治和町	個人
		47	古文書	昭 56. 3.28	古陽場古文書	三隅町岡見	個人
		48	古文書	昭 56. 3.28	古阳神社古文書	三隅町三隅	二宮神社
		49	古文書	平 7. 3.28	諸國御客船帳	外ノ浦町	個人
		50	古文書	平 9. 7.11	石見郡瀬戸御船図	高佐町	個人
		51	古文書	平 9. 7.11	浜田城下町鳥瞰絵図	高佐町	個人
		52	古文書	平 9. 7.11	浜田城下町方競絵図	鮮子町	個人
		53	古文書	平 9. 7.11	自序瀬戸至長浜浦海岸絵図	外ノ浦町	個人
		54	古文書	平 14. 2.22	諸國御客船帳	外ノ浦町	個人
		55	古文書	平 14. 2.22	紙本着色乗台本	周布町	個人
		56	考古資料	昭 58.12.26	金目1号墳出土品	金城町 浜田市金城歴史民俗資料館	浜田市
		57	考古資料	平 7. 3.28	鷹石器出土品	浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		58	考古資料	平 7. 3.28	銅造牛軒轅造化立像	浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		59	歴史資料	平 9. 7.11	石見久保国松園懸紙改切絵図	浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		60	有形民俗文化財	昭 48. 5. 1	獅子頭	片庭町	個人
		61	有形民俗文化財	昭 48. 5. 1	獅子頭	日御町	天人岡八幡宮

					下有福町	有福神楽保持者会
					上府町	石見神代神楽上府社中
					佐野町	石見神楽佐野神樂社中
					長浜町	石見神樂長浜社中
					日御町	日御神代神樂社中
					内村町	個人
					田舎町	石見神樂美川西神樂保存会
					鍋石町	鍋石神樂社中
						個人
市史1	L10	63	史跡	昭 44.11. 3	片山古墳	下府町 1930
						周布町口 527.527 内 1537-1.537-2.538.538 内 1
市史2	L43	64	史跡	昭 44.11. 3	壽巣城跡	周布町口 92 線 192-3.328.529.531.532.533.536.536 内 1537 内 1.537-4.537-4.537-6
市史3		65	史跡	昭 51. 3.25	東海藤先生之墓	真光町 63
市史4	L26	66	史跡	昭 51. 3.25	日和山方角石	外ノ通町 1489-2
O74	67	史跡	昭 56. 3.28	近古寺の院	三隅町二隅	
	68	史跡	昭 56. 3.28	笠取の森	三隅町黒沢	
	69	史跡	昭 56. 3.28	大崎山神社道中石	三隅町東平原、三隅町室谷	
O75	70	史跡	昭 56. 3.28	或田原三角田記念碑	三隅町三隅	
O20	71	史跡	昭 56. 3.28	尼屋用水隧道	三隅町井川	
O77	72	史跡	昭 56. 3.28	龍英法師廟	三隅町三隅	
市史6	N51	73	史跡	昭 58.12.26	金田1号噴	金城町下栄原 1334-3
市史7	N71	74	史跡	昭 58.12.26	笠松崎の石疊路	金城町波佐
市史8	N8	75	史跡	昭 62.12.18	波佐一木城跡及び関連施設	金城町波佐
市史5	L22	76	史跡	平 14. 2.22	上条跡 (城山廻津出土施)	上府町イ 2214-5
浜天1		77	天然記念物	昭 44.11. 3	リヨードンダ及び群生地	河内町
浜天2		78	天然記念物	昭 44.11. 3	多陀郡のクスノキ	生瀬町 1767
浜天3		79	天然記念物	昭 44.11. 3	多陀郡のヒコノキ	生瀬町 1767
浜天4		80	天然記念物	昭 48. 5. 1	多陀郡のシイ・タブ株	生瀬町 1767
浜天5		81	天然記念物	昭 48. 5. 1	伊木神社のイチョウ	下府町 935-2
浜天6		82	天然記念物	昭 48. 5. 1	伊木神社のムクノキ	下府町 935-2
					金城町の巨樹・銘木	
浜天7-1					大久保川のシキミ群生	金城町今福 1531
浜天7-2					大久保川のネズミサシ	金城町今福 1531
浜天7-3					大久保川のヒヨクシバ	金城町今福 406
浜天7-4					大久保川のエノキ	金城町今福 415
浜天7-5					山手のクロマツ	金城町今福 111
浜天7-6					下久保のシキミ	金城町久保イ 1024-4
浜天7-7					大久保神社のスダジイ及びエノキ巨樹群	金城町久保イ 1277
浜天7-8					新開のモッコク	新開町七条イ 1035
浜天7-9					伊木八幡宮の大フジ	伊木八幡宮
浜天7-10					伊木八幡宮のイチイガシ	伊木八幡宮
浜天7-11					上栗原大元社のタブなど巨樹群	金城町上栗原 637-1
浜天7-12					大谷のヤマガキ	金城町上栗原 628
浜天7-13					鶴ヶ崎のアベマキ	金城町上栗原 大草田
浜天7-14					光祖廟の大イチョウ	金城町小国ハ 239-3
浜天7-15					小立原のヤブバキ群及びケヤキ巨樹群	金城町波佐イ 1097-1.1097-3
浜天7-16					晋沢の大モミ	個人、平 21.6.15 殖死のため指定解除
(指定解除)						
浜天7-17					水昌寺の大スギ	金城町波佐イ 1192-1
浜天7-18					千谷屋の薬理のモミジ	水昌寺
浜天7-19					長田郷の大エノキ	金城町長田イ 25
浜天7-20					東谷の大ガシ	金城町長田イ 399-2
浜天7-21					静養寺のハクモクレン	金城町長田イ 359-4
浜天7-22					若生のケヤキ巨樹群	金城町波佐イ 1310
浜天7-23					若生の大モミジ	金城町波佐イ 1351-2
浜天7-24					網濱のカツラ	金城町波佐イ 1319-41
		84	天然記念物	平 7. 3.28	おおたけき類	三隅町井野
		85	天然記念物	平 17. 9.22	佐々木桜	三隅町三隅
		86	天然記念物	平 17. 9.22	海老木桜	三隅町向野田

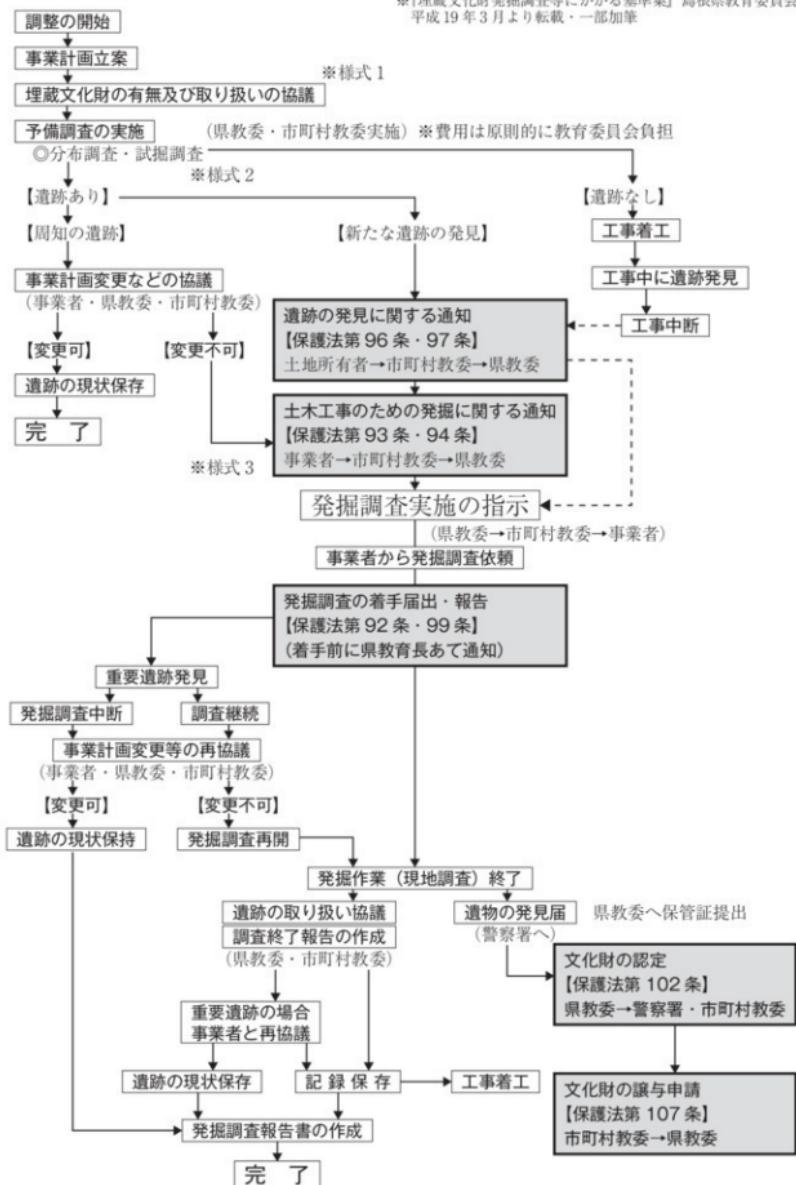
【登録文化財】

国登1	87	平 9. 5.7	浜田市立第一中学校屋内運動場 (旧歩兵第二十一連隊宿舎練兵場)	黒川町 3745	浜田市
国登2	88	平 9. 5.7	島根県立浜田高等学校第二体育館 (旧歩兵第二十一連隊宿舎練兵場)	黒川町 3749	島根県

### 第3章 埋蔵文化財の事務手続きフロー

## 開発事業に伴う埋蔵文化財の取り扱い

※「埋蔵文化財発掘調査等にかかる基準集」鳥根県教育委員会  
平成19年3月より転載・一部加筆



※様式1

第 号  
平成 年 月 日

浜田市教育委員会教育長 様

住所  
氏名  
(担当者)

⑩

発掘調査承諾書

浜田市が実施する埋蔵文化財調査について、下記のとおり承諾します。

記

このたび下記のとおり開発工事を計画していますので、文化財等の有無及び取扱いについて協議します。  
また、計画地立ち入りと予備調査（現地確認等）の協力に同意します。

1 開発事業名

2 開発計画場所

3 施行面積 (m<sup>2</sup>)

4 開発予定期限

5 その他 (回答希望時期など)

※様式2

平成 年 月 日

浜田市教育委員会教育長 様

土地所有者  
住所

⑩

発掘調査承諾書

浜田市が実施する埋蔵文化財調査について、下記のとおり承諾します。

記

1. 調査場所 浜田市 番地  
2. 調査期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日  
3. その他 埋蔵文化財に関する権利を放棄し、浜田市教育委員会に一任する。

## ※様式3

## ※様式4

署名欄

新 号 年 月 日  
原 印  
島根県教育委員会教育長 様

別記

93条第1項・94条第1項 (○で囲むこと)

黒文書番号 第

号・年月日

1. 所在地	2. 面 積 m <sup>2</sup>
3. 土地所有者 住所:	
氏名等:	
4. 道路の種類 敷石地、集落路、贝冢、官道跡、城廻路、社寺跡、古墳 横穴墓、その他の墓、生産道路、その他の道路( )	
道路の名称 (県道路番号)	員数( )
道路の現状 完地、水田、焼地、山林、道路、荒地、原野、その他( )	
道路の時代 由石器、绳文、学生、古墳、奈良、平安、中世、近世、その他( )	
5. 工事の目的 道路、鉄道、空港、河川、港湾、ダム、学校建設、集合住宅、個人住宅、工場、店舗、個人住宅兼工場又は本鋪、その他建物( ) 宅地造成、土地区画整理、公園造成、ゴルフ場、觀光開発 ガス、電気、水道等、農業基盤整備事業(農道等を含む) その他の農業関係事業、土歩道取、その他開拓( )	
工事の概要	
6. 工事主体者 住所:	
氏名等:	
7. 施行責任者 住所:	
氏名等:	
8. 着手予定期 年 月 日 9. 終了予定期 年 月 日	
10. 参考事項	
指導事項 発掘調査、工事立会、慎重工事、その他( )	

埋蔵文化財発掘の〔届出・通知〕について

周知の埋蔵文化財包藏地にしようとする土地や事業等のための発掘を実施したいので、文化財保護法(昭和25年法律第214号)、第184条第1項及び文化財保護法施行令(昭和50年政令第267号)、第93条第1項・第94条第1項(93条第1項)、第184条第1項及び文化財保護法施行令(昭和50年政令第267号)第93条の規定により、下記の事項について、関係者類を添付し、別記のとおり  
9)〔届出・通知〕します。

## 記

1. 土木工事をしようとする土地の所在地及び地番
2. 土木工事をしようとする土地の面積
3. 土木工事をしようとする土地の所有者の氏名又は名称及び住所
4. 土木工事をしようとする土地に係る道路の種類、員数及び工事の概要
5. 当該土木工事等の目的、計画及び工事の概要
6. 当該土木工事等の主体となる者(当該土木工事等が請負契約等によりなされたときは、契約の両当事者の氏名及び住所)法人その他の団体の場合は、その名称及び代表者の氏名及び住所
7. 当該土木工事等の施工担当責任者の氏名及び住所
8. 当該土木工事等の着手の予定期間
9. 当該土木工事等の終了の予定期間
10. その他参考となるべき事項

【添付書類】  
土木工事をしようとする土地及びその付近に当該土木工事等の概要を示す書類及び図面

【注意事項】①太線内は届出・通知者が記入。②指導事項欄は県教育委員会で記入。  
③遺跡の種類・範囲・時代及び工事の目的欄は該当項目を○で囲み、該当項目のない場合は( )内に記入。

## 第4章 七渡瀬II遺跡・長田地区的試掘確認調査

### 第1節 七渡瀬II遺跡確認調査

浜田市金城町波佐の周布川と長田川の合流する地点の右岸段丘に位置する。これまで昭和61年に七渡瀬遺跡（七渡瀬I遺跡）、平成3～5年と平成20年に七渡瀬II遺跡の発掘調査が行なわれている（金城町教育委員会1987・1994）。平成20年の調査は国道186号線の歩道工事の際、法面に黒色土の落ち込みが見られたため緊急に調査を実施したものである。

遺跡は2級河川周布川東側の河岸段丘上に位置し、縄文時代後期後半～弥生時代末・古墳時代前期の竪穴住居～古代・中世の柱穴群と継続する波佐・長田地区の中心的遺跡とされている。これまででは国道186号線の西側で遺構・遺物が確認されている。遺跡の範囲を確認するため、国道東側の休耕田と畑に調査区を10地点設定した。調査地点の番地は浜田市金城町波佐イ441-3・イ427-2・イ426-4・イ427-1である。七渡瀬II遺跡確認調査と長田地区試掘調査は平成20年10月6日～10月22日まで実施した。

#### 山側の最も高い歴史民俗資料館下の水田面の調査区

##### T 1・T 2・T 8 (1m × 5m・5mf・現地表高374.1m)

T 1では現地表下約20～30cmで洪水の可能性がある砂と粘土層を確認した。T 1・T 2・T 8と上の水田で確認されている。詳細な時期は現段階では不明だが、昭和58年頃の水害では国道186線が浸かっており、一時に洪水がきた可能性がある。砂の下では小礫混じりの暗灰褐色土・黒色土があり、弥生～中世・近現代の遺物・木質（杭など）が出土する。今回の調査で最も遺物が出土した調査区だが、遺物はいずれも細片である。地表下0.5～1.1m下・標高373.5～373.0mで傾斜する硬質な角礫・小礫混じり暗灰色砂質土面を確認したが遺構は確認されなかった。

T 2とT 8の土層はT 1と同様で、黒色土の下が黒色土混じりの角礫面になる。遺構は確認されなかった。遺物量はT 1に比べ少ない。

#### 水田下の畑面（旧道路？）の調査区

##### T 3・T 4・T 9 (2m × 3m・6mf・現地表高372.9m)

水田下の畑面は古い道の上を造成して畑を造ったと聞いていた。調査結果では最も南側のT 3部分は大半が造成されて搅乱を受け、黒色土が帯状のブロックで混じっていた。北側のT 4・T 9では耕作土下でコンクリートを含む雜な硬質面と石列を確認し、路面と見られる。路面下も造成されていたが地表下約0.15～0.7mで小礫を含む黒色土が確認された。黒色土は厚さ15～30cmあったが、遺物はほとんど確認できなかった。黒色土下の淡褐色土面で遺構は確認できなかった。淡褐色土面の下は砂礫層や砂層になる。

#### 最も低い北側畑の調査区

##### T 5～T 7 (2m × 3m・6mf・現地表高370.5～371.8m)

国道186号線東側の畑から南北方向に調査区を3地点設定したが、いずれも耕作土が約15cmありその下で黄褐色土面が検出されたが、遺構と遺物は確認できなかった。この黄褐色土面はT 10の遺構検出面にあたる。

##### T 10

国道と市道交差点の法面に露出していた遺物を含む黒色土の範囲を確認するために設定した。この黒色土は弥生時代～古墳時代の土器細片を含み、長さ1.95m以上・厚さ8～10cmで帯状に見られる。竪穴住居跡の可能性もあり、範囲確認のため台形状の調査区を設定した。黒色土は当初の想定以上に南側へ曲がり、調査区隅で確認された。遺構の落込みは直線状になる。黒色土からは古墳時代頃の土師器壺などの破片が出土したが、いずれも固化できない細片である。

## 出土遺物

各調査区から出土した遺物の破片数は表1にまとめた。山側の最も高い歴史民俗資料館下の水田面の調査区（T 1・T 2・T 8）とT 10に遺物が多いが大半が図化しにくい細片である。破片では古墳時代頃の土師器片が最も多く、弥生土器や中世土師器がそれに次ぐ点数である。T 1から古代の可能性のある瓦片が1点出土している。（第5図・1、2）はT 1の表土付近から出土した。（1）は回転糸切り痕を残す底径5.6cmの中世土師器皿底部である。（2）は平瓦片で、凸面に一部格子状の叩き痕が残るが大半がナデにより不明瞭になる。凹面は細かな布目痕と直線的なヨコナデによる段がつき、瓦当部を接合した可能性もある。胎土は1～2mmの白色粒が多く含み、色調は外面が暗灰色、断面は暗紫色で全体に硬質である。（第6図・3～6）はT 2の黒色土から出土した。（3・6）は弥生土器で（3）は壺の頸部で板状工具による斜めの刺突文が残り、後期頃と見られる。（6）はやや厚い壺甕類の底部で内面にケズリが見られ、後期初め頃とみられる。（4・5）は回転糸切り痕を残す底径8cm、4.8cmの中世土師器皿底部である。（第7図・7）はT 9の黒色土から出土した。須恵器の頸部と見られ、焼成が悪く灰白色である。外面に浅くカキメ状の平行線が残る。

## 第2節 長田地区試掘調査

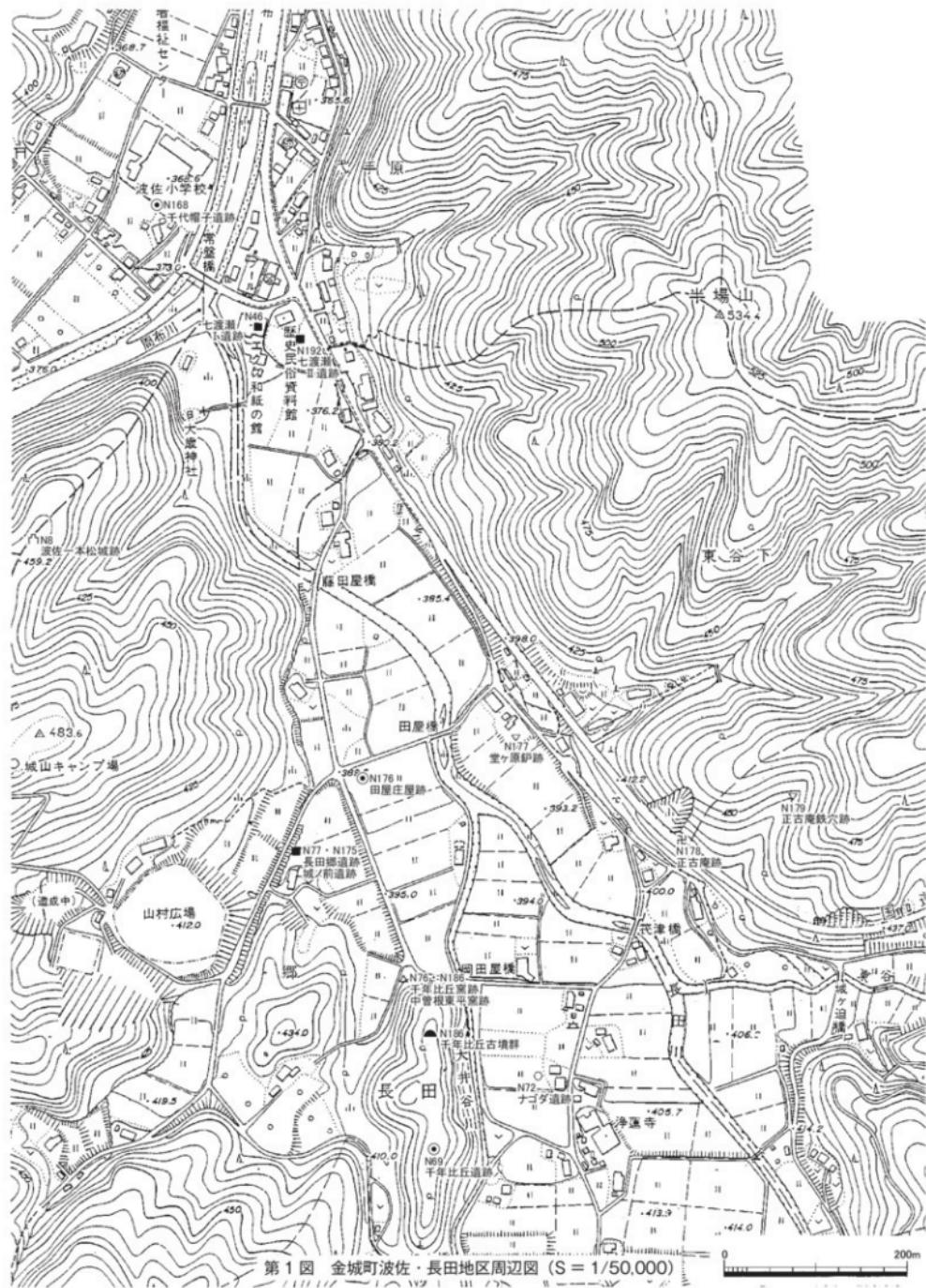
七波瀬II遺跡のある波佐地区よりさらに南、広島県境に接する長田地区には、長田郷遺跡（金城町教育委員会1986）・ナゴタ遺跡・千年比丘1号墳（金城町教育委員会編1994）・市指定史跡 波佐一本松城跡（金城町教育委員会1986）などが所在する。これらの遺跡は長田川の左岸と長田川の支流の大井谷川周辺に位置している。長田川右岸は現在国道186号線が走る山裾がせまっており、あまり平坦地はないが、状況確認のため東谷下の水田面に2地点（2m×3m・T 11・T 12）の調査区を設定して調査を実施した。調査地周辺は「竹ノ河内」と呼ばれているようである。なお、山側にはかつて数件の家があつたが、近年の土砂災害で倒壊したため移転している。調査地点の番地は浜田市金城町波佐イ457-4である。

### T 11 (2m × 3m · 6mf · 現地表高 394.6m)

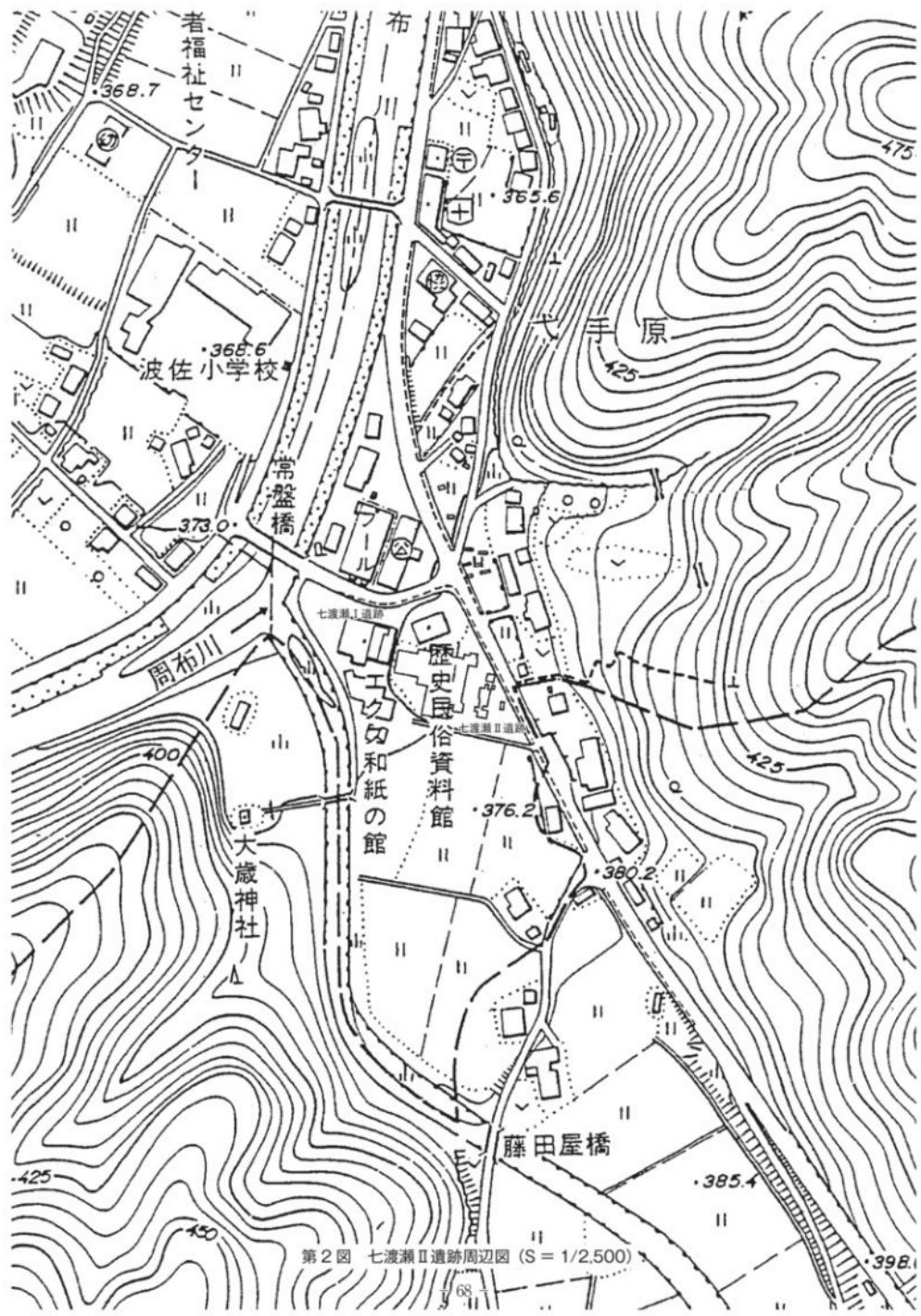
耕作土とその下のマンガン集積層が約50cmあり、大石が混じる暗灰褐色土が検出された。その下ではさらに大石が増えたため掘り下げることができなかった。大石が混じる暗灰褐色土は土石流の一部と見られるが、聞き取りでは近年の災害のものではないとのことである。以前から土砂災害を受けやすい場所と見られる。表土から近現代陶磁器が2点出土した。

### T 12 (2m × 3m · 6mf · 現地表高 394.1m)

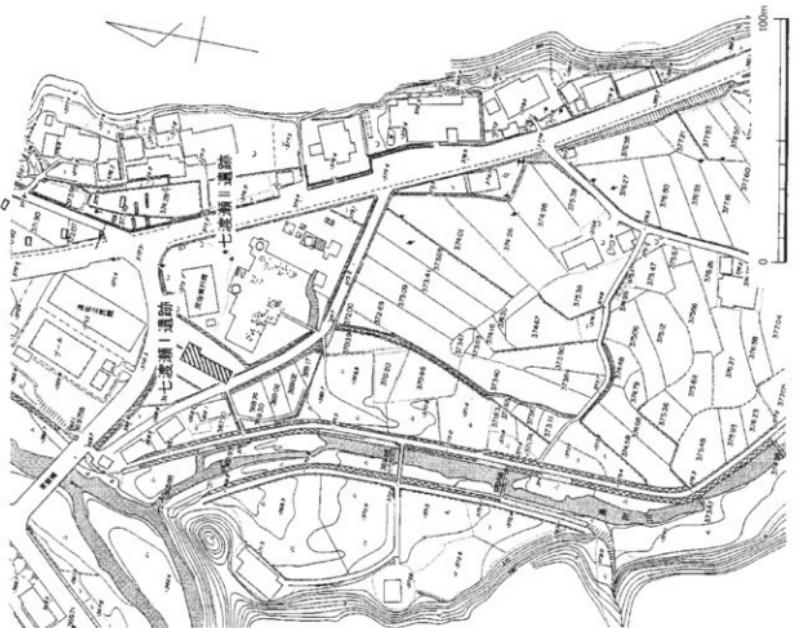
耕作土とその下のマンガン集積層が約55cmあり、角礫が混じる暗灰色砂礫層が検出された。その下では大石が多く、掘り下げることができなかった。角礫が混じる暗灰色砂礫層は長田川による河岸段丘形成層の一部と見られる。水害の痕跡はなかったが、おそらく川の影響を直接受ける河原であったと見られる。表土から近現代陶磁器が4点出土した。



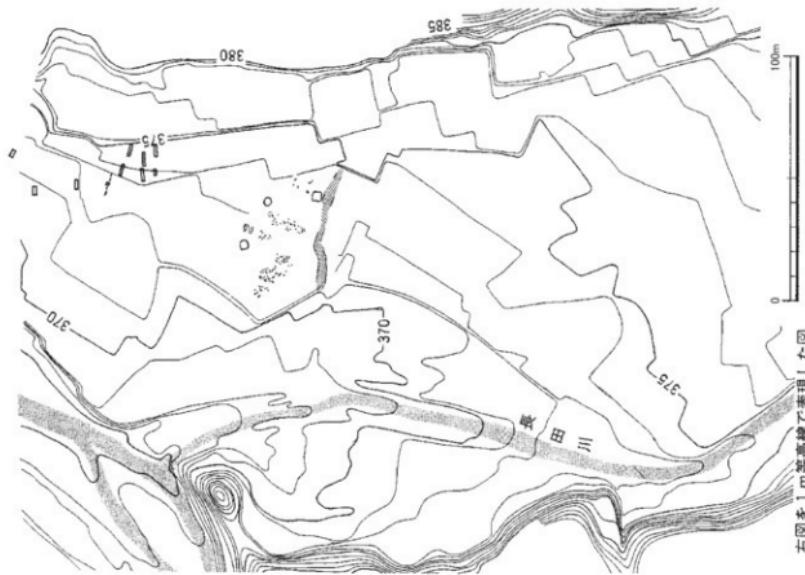
第1図 金城町波佐・長田地区周辺図 (S = 1/50,000)



第2図 七瀧瀬Ⅱ遺跡周辺図 (S = 1/2,500)



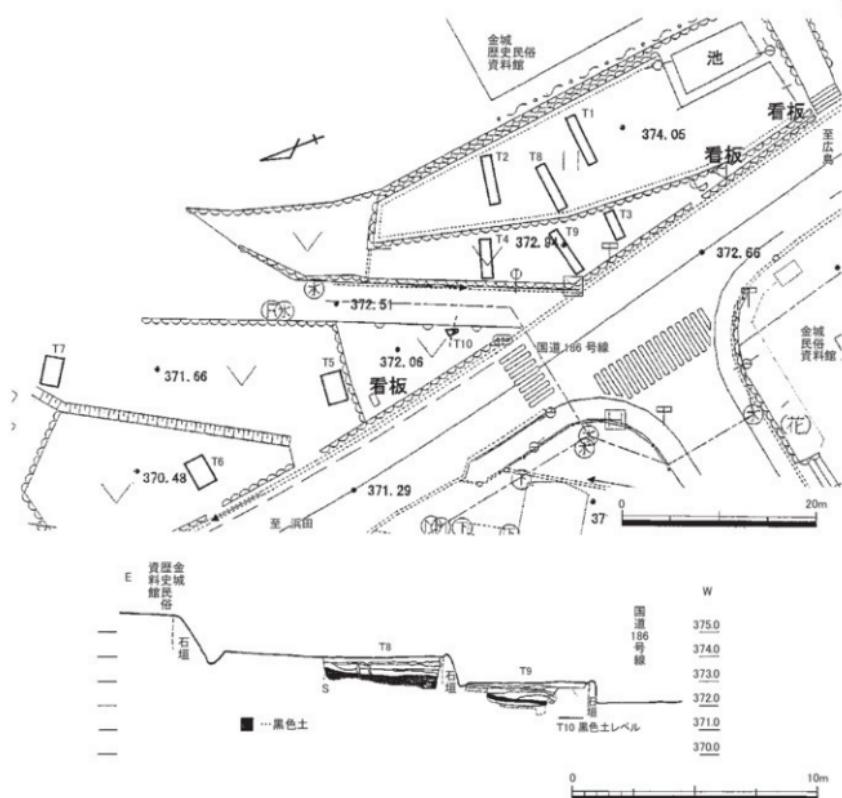
図場整備前の地形図



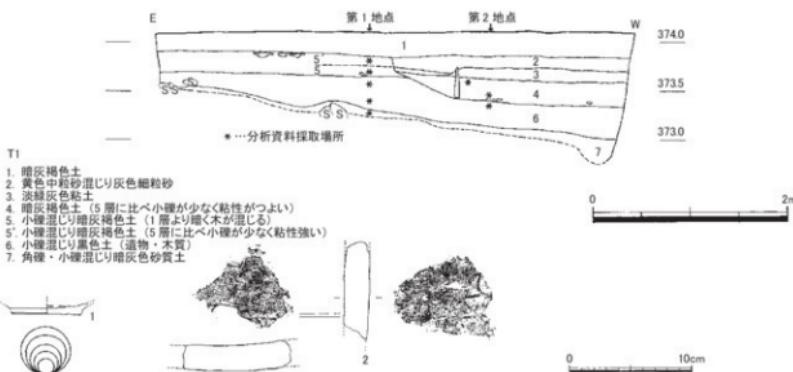
右図を 1 m 等高線で表現した図

第3図 七ヶ瀬II遺跡と周辺の地形（図場整備前）

『波佐』1994 金城町教育委員会編より転載・一部加筆

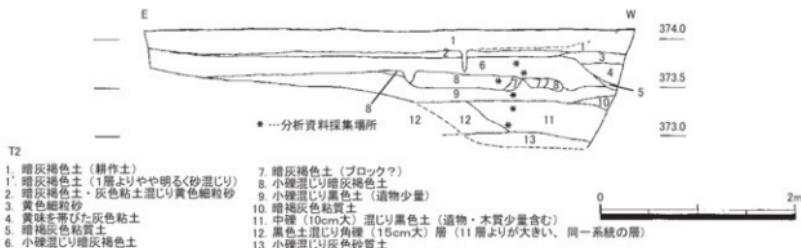


第4図 七渡瀬II遺跡 調査位置図

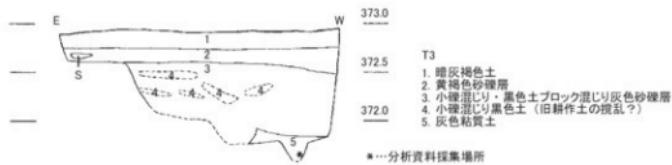
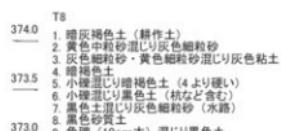
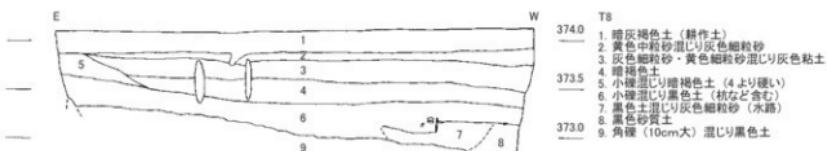


T1出土遺物

第5図 T 1 実測図

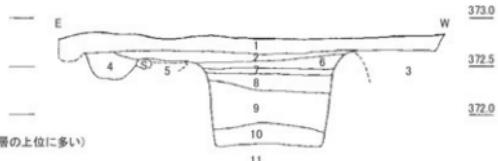


T2 出土遺物

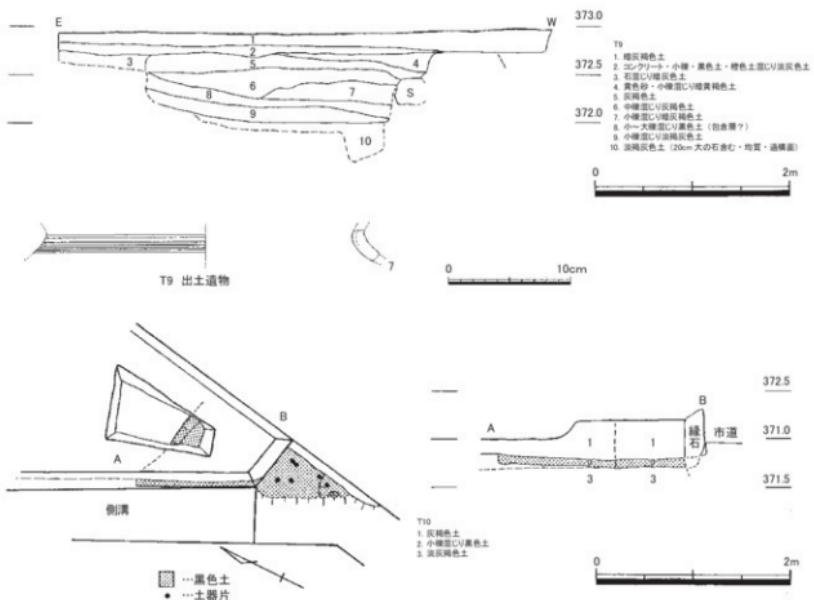


T4

1. 暗褐色土（耕作土）
2. コンクリート混じり小石層（路面か）
3. 小石層（石垣裏込）
4. 黄色砂と灰色砂（旧路面の石の側溝？）
5. 深色土（側溝の石の埋立？）
6. 暗褐色土・小穂の和混・確多）
7. 鉄筋（小穂混じり褐色土（小石多い・確多））
8. 小穂・小石混じり黒色土（小石・確多）
9. 小穂混じり淡褐色土（本来の道横面？・確は層の上位に多い）
10. 淡褐色灰色砂砂層
11. 淡褐色灰色中粗砂



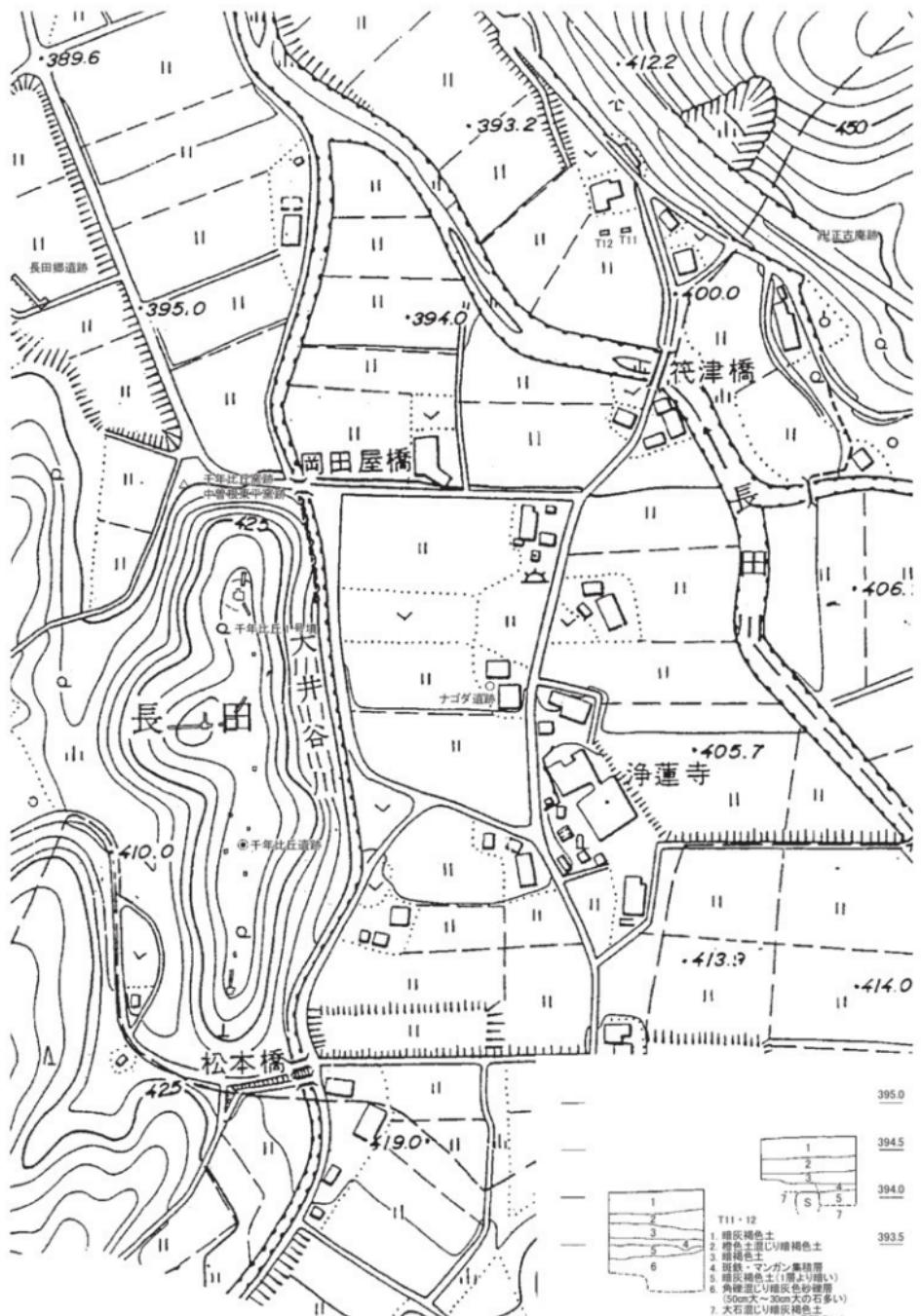
第6図 T2・T8・T3・T4 実測図



第7図 T9・T10 実測図

発生土器	古墳～古 代土師器	須恵器 (蓋杯)	須恵器 (壺・壺類)	中世 土師器	瓦質土器	近世～現代			その他	合計			
						肥前系 陶器	磁器	石見焼 瓦					
T1	13	10	1	1	17	1	2	11	4	12	2	18	92
T2	2	5	2	1	6		1	9	2	4	3	15	50
T3									4		2		6
T4	1		1	1	4								7
T5					2								2
T6								2					2
T7							1				1		2
T8		9	2		11	1	6	4	2		11		46
T9				1			2	3			1		7
T10	10	6							1				17
T10南 黒色土	2	40											43
合計	28	70	6	4	40	2	3	30	15		5	48	251

表1 遺物破片点数表



第8図 長田地区 試掘調査

### 第3節 七渡瀬II遺跡発掘調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

#### はじめに

七渡瀬II遺跡は島根県浜田市金城町波佐地内に立地する。本報告は、遺跡周辺の古環境推定の目的で、浜田市教育委員会が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した花粉分析及びAMS年代測定の概報である。

#### 試料について

第4章第1節の第5・6図（70～71頁）に示したT1～T3トレンチの4地点で分析試料を採取した。各地点の模式柱状図と試料採取層準を図2～5の花粉ダイアグラム中に示した。また、T3トレンチ（No.4地点）試料No.1を分割して、年代測定と花粉分析に用いている。

#### AMS測定年代方法・測定結果

渡辺（2006）にしたがって前処理、測定を行った。較正年代はINTCAL04を用いて、OxCal 4.1により算出した。

AMS年代測定結果を表1に示し、図2にOxCalによる較正結果を示す。表1には、3種類の年代と、 $\delta^{13}\text{C}$ 値を示してある。補正 $\delta^{14}\text{C}$ 年代は、 $^{14}\text{C}$ 濃度が環境により変動することから、 $\delta^{13}\text{C}$ を測定し、 $\delta^{13}\text{C} = -25\%$ に規格化した $^{14}\text{C}$ 濃度を求め、リビーの半減期（5568年）を用いて年代値を算出したもの（曆年較正用年代）を5年単位で丸めた値で、西暦1950年からさかのぼった年代値で示してある。一方曆年代は、時代（時間）とともにランダムに変化している大気中二酸化炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度を、樹木の年輪や海底堆積物のしま状粘土、サンゴの年輪から明らかにして得られた曆年代較正データ（INTCAL04）を用いて、較正したものである。

#### 花粉分析方法・分析結果

花粉分析処理は、渡辺（2009）に従った。分析結果を図3～6の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは、計数した木本花粉を基數にし、各々の木本花粉、草本花粉、一部の胞子について百分率を算出してスペクトルで表した。また左端に示した花粉総合ダイアグラムでは、木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基數として、分類群ごとに累積百分率として示した。右端には、比例計算により求めた分析試料1g（湿潤重量）当たりの含有量（粒数）を示した。また中村（1974）に従い、イネを含む可能性が高いイネ科（40ミクロン以上）とイネを含む可能性が低いイネ科（40ミクロン未満）に細分している。

#### 花粉分帶

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料No.も下位から上位に向かって記した。

##### (1)Ⅲ带（No.1地点試料5～3、No.2地点試料3、No.3地点試料6、5）

木本花粉化石の割合が、50～60%を占める。スギ属が卓越し、マツ属（複維管東亜属）、コナラ亜属、アカガシ亜属が数%の出現率を示す。

##### (2)Ⅱ带（No.1地点試料2、No.2地点試料2、1、No.3地点試料4）

木本花粉化石の割合が20～30%程度に下がる。スギ属が30～40%と卓越するが、マツ属（複維管東亜属）、コナラ亜属が15～20%程度まで増加する。このほか、クマシデ属・アサグ属、ブナ属、

アカガシ亜属が数%の出現率を示すようになる。

(3) I 帯 (No 1 地点試料 1、No 3 地点試料 3 ~ 1)

木本花粉化石の割合は 10 ~ 20% と低下し、草本花粉の割合が 70% を超える。マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が 30 ~ 40% 程度まで増加し、スギ属は 20% と減少する。

### 従来の結果との比較

渡辺・石賀（2008）は島根県西部の浜田市内で、縄文時代前期以降の地域花粉層序を設定した。ここでは、6400yrs BP から 1550yrs BP の間でスギ属が卓越し、アカガシ亜属を伴う。その後、マツ属（複維管束亜属）が急増し、スギ属が急減する。ただし、アカガシ亜属には変化がほとんど認められていない。浜田市内では北部の横路遺跡（川崎地質㈱；1997、1998）や川向遺跡（川崎地質㈱、2000）などで花粉分析が行われ、断続的にではあるが花粉組成変遷がまとめられている。ここで木本花粉化石群集の変化は、渡辺・石賀（2008）と矛盾しない結果であった。

今回得られたⅢ帯ではスギ属が木本花粉化石のほとんどを占め、弥生時代～中世の植生を示すとされることから、渡辺・石賀（2008）の MGS2 - II 帯 a 亜帯に対比できる。ただし、既知の結果ではアカガシ亜属が付随種としてとらえられている事に対し今回の結果ではアカガシ亜属がほとんど検出されず、コナラ亜属の出現率が、アカガシ亜属を上回る。一方、浜田市下府平野の横路遺跡や川向遺跡の弥生時代～中世とされる層準の花粉化石群集は、マツ属（複維管束亜属）が増加傾向を示すことから、今回のⅡ帯、あるいはⅠ帯が対比される。ただし、既知の結果ではアカガシ亜属が付隨種としてとらえられている事に対し、やはり今回の結果ではコナラ亜属がアカガシ亜属を上回ったままである。

アカガシ亜属の出現率が低い理由を、暖温帯に位置する平野部（益田平野、下府平野）と山間部（波佐盆地）の植生の違いと考えることが一般的であろう。しかし、波佐盆地は TP+370m 程度と、暖温帯上部に属する標高である。このことは、周囲の山地高所にはブナ林、ミズナラ林が分布するものの、低所には社寺林としてカシ林が残存していることからも明らかである。したがって、山地高所からもたらされたはずのコナラ亜属が、より近い盆地縁辺の山地低所に生育していたアカガシ亜属より高率になることはありえない。このような現象は、盆地内のカシ類が選択的に伐採されたとすると容易に説明が可能である。したがって、Ⅲ帯の時期には森林に対して人間の干渉が働いていたものと考えられる。

### 古環境変遷

花粉分析結果に基づいて、花粉帯ごとに遺跡周辺の古環境を推定した。古環境変遷が明確になるように、下位から上位に向かって示した。

また前述のように、調査地点の現地表面の標高は TP + 374m であり、植生帯の暖温帯上部に位置する（八幡宮社寺林：常盤山のカシ林として、スギを混淆する林が現存）。周囲の山地は東に 1000m 程度の尾根が続き、天然林であるブナ林が分布する。南、西、北には 500 ~ 800m とやや低い尾根が続き、低所には暖温帯の二次植生であるコナラ林、高所にはブナ林や二次植生のミズナラ林が分布する。

(1) Ⅲ帯以前 (calBC 1115 ~ 935 ごろ)

堆積物は青灰色の粘土で、有機物が含まれているもののわずかで、洪水などにより短時間のうちに堆積した可能性がある。草本花粉、胞子の割合が高かったことを加味すると、調査地近辺には草地が広がり、洪水時に凹地を埋めて粘土がたまつたものと考えられる。一方、花粉化石の含有量が少なかったものの、上位の層準でも含有量の少ないアカガシ亜属が検出できた。このことから、カシ類が遺跡近辺に生育していた可能性が高い。先に示した常盤山のカシ林で認められるような林が、盆地縁辺の山地低所に広がっていた可能性がある。

(2) Ⅲ帯期 (弥生時代～中世)

淘汰の悪い、腐植質に富む堆積物であった。地形図を見る範囲で、調査地に湿地が広がっていたと考

えられる地形ではない。むしろ、ため池など人口の沼沢地内で堆積した可能性も指摘できる。

草本、胞子の割合がほぼ50%を占め、調査地近辺には沼沢地（ため池？）が造られ、周辺に草地や田畠が広がっていたと推定できる。調査地近辺の谷斜面や扇状地端部にはスギ林が広がっていたと考えられる。一方で、開発が進んでカシ林は跡形もなく伐採された。燃料材としてのカシの商品価値が、建築材としてのスギの商品価値を上回り、スギが伐採されずに残ったと考えられる。顕著な二次林化的傾向（マツ属（複雑管束亜属）やコナラ亜属の増加）が認められないことから、カシ類の伐採跡は茅場や焼き畑として利用された可能性がある。

#### (3) II带期

淘汰の悪い腐植質の砂質粘土であり、草本の割合が高く、特にイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、ソバ属も検出される。水田雜草のオモダカ属、イネ科（40ミクロン未満）、キカシグサ属やキンボウケ科も検出される。これらのことから、調査地一体が水田として利用され、裏作や休耕中に畑、あるいは畦を利用してソバが栽培されていたと考えられる。このころになるとスギも伐採されるようになる。スギの伐採跡（前時期のカシ類伐採跡も含めて）は開墾されて田畠になったり、アカマツやコナラを主要素とする「里山」に変わっていたりしたと考えられる。

#### (4) I带期

淘汰の悪い腐植質の砂質粘土であり、草本の割合が更に高くなる。伴ってイネ科（40ミクロン以上）も更に高率になり、ソバ属も検出される。また、水田雜草の種類や量も増える。これらのことから、調査地一体が引き続き水田として利用され、裏作や休耕中に畑、あるいは畦を利用してソバが栽培されていたと考えられる。スギは更に伐採され、アカマツやコナラを主要素とする「里山」の分布が更に広がった。アカマツやコナラは、鉱製鉄などに利用された可能性も指摘できる。

### まとめ

七渡瀬II遺跡での発掘調査に伴い花粉分析及びAMS年代測定を実施して、遺跡埋積時の古環境を推定した。今回の分析で明らかになった主な事柄を以下に示す。

- ① AMS年代測定としてcalBC 1115 – 935ごろ（縄文時代後期末から晩期初頭）の年代が得られた。
- ②地域花粉帯として、Ⅲ～I带を設定した。また、Ⅲ带は出土遺物から弥生時代～中世の植生を示すと考えられ、平野部の分析結果と矛盾しなかった。
- ③Ⅲ帶の時期以前に、人間活動によるカシ類の選択的伐採が行われていたと考えられる。
- ④調査地点が水田化したのはⅡ帶の時期で、同時にソバ栽培も行われていた。
- ⑤Ⅱ帶の時期にはスギ林が伐採され、現在認められるようなマツ林やコナラ林が盆地縁辺の山地低所に広がっていたと考えられる。

### 引用文献

- 川崎地質株式会社（1998）横路遺跡（原井ヶ市地区）発掘調査における花粉分析。横路遺跡（原井ヶ市地区）－浜田東中学校建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－、65 – 71。鳥根県浜田市教育委員会。
- 川崎地質株式会社（2000）川向遺跡発掘調査における自然科学分析。川向遺跡－多陀寺川荒廃砂防事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－、40 – 46。浜田土木建設事務所・浜田市教育委員会。
- 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネを中心として。第四紀研究、13、187 – 197。
- 渡辺正巳・石賀裕明（2008）鳥根県西部益田平野における過去6400年間の環境変遷、植生史研究、16(1), 3 – 10.
- 渡部正巳（2006）松江市山津窯跡における灰原内の炭のAMS年代測定と樹種、大井窯跡群山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書、472 – 477。財松江市教育文化振興事業団。
- 渡部正巳（2009）花粉分析法、埋蔵文化財調査の基礎テクニック、239 – 242。ニュー・サイエンス社

表 1 AMS 年代測定結果

試料			$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ (yrBP)	曆年較正用年代 (yrBP)	曆年較正年代		測定番号 (PLD-)
No.	遺構名	状態				10万年年代範囲	20万年年代範囲	
4-1	T1 4層	腐植土 乾燥	-23.23±0.11	2855±20	2854±18	BC1050~980 (68.2%)	BC1114~1099 (2.9%) BC1090~971 (83.6%) BC961~935 (8.9%)	14376

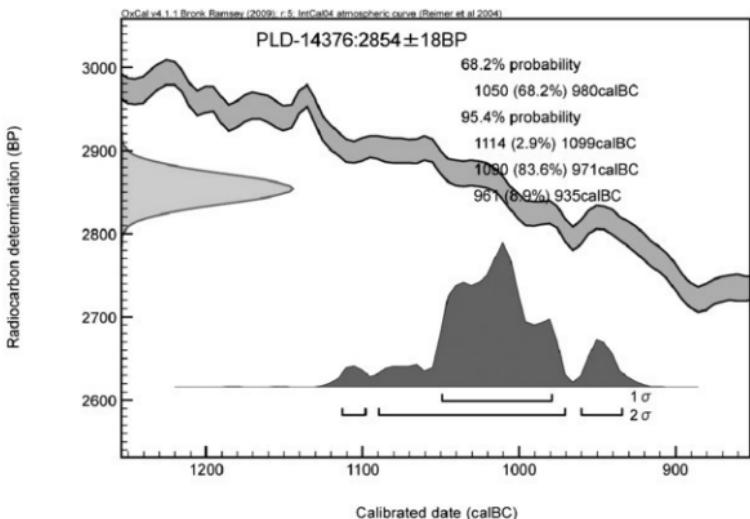


図 1 曆年較正結果

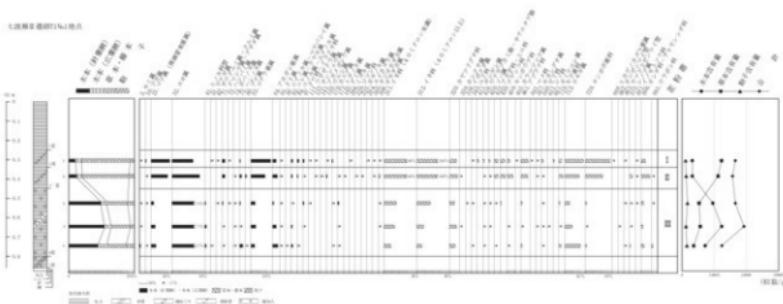


図2 T1No.1 地点の花粉ダイアグラム

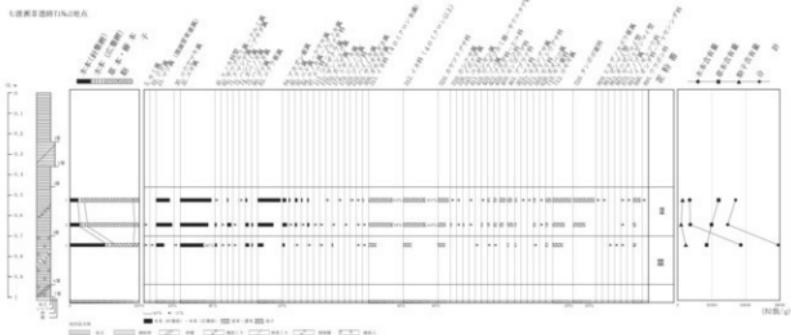


図3 T1No2 地点の花粉ダイアグラム

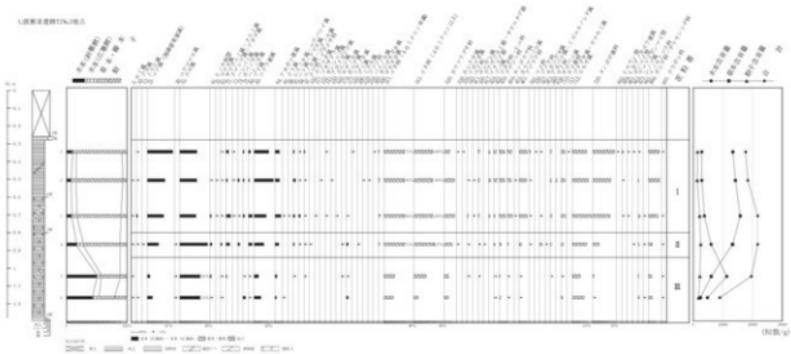


図4 T2No3 地点の花粉ダイアグラム

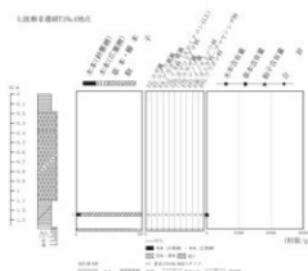


図5 T3No4 地点の花粉ダイアグラム

#### 第4節 総 括

七渡瀬II遺跡確認調査では、弥生～中世・近現代の遺物がT 1・T 2・T 8・T 10にかけて多く出土するが、細片が多い。水田面の調査区（T 1・T 2・T 8）の黒色土では板材を加工した杭のような木質も見つかるが、時期が不明確である。T 8の黒色土西側では細粒砂が混じり板や杭が横になって見つかる場所がある。明確な掘り込みは黒色土中のため確認できないが、暗渠状の水路があった可能性もある。他の調査区でも遺構は確認できなかった。今回の調査区は遺跡の山側縁辺部にあたり、遺物は細片のものが大半である。

これまで堅穴住居が調査された標高は372～373m前後の平坦地にあたり、河岸から約2.3m高い位置にある。今回の調査区ではT 3・T 4・T 8がこの高さにあたるが、遺構は確認できなかった。T 1・T 2・T 8は傾斜地で、東側の谷からの崩落土と遺構は確認できない。最も標高の低い北側のT 5～T 7でも遺構は確認できない。堅穴住居が調査された地点より標高の低い川側は砂礫層で遺構は確認されていない。

T 10では標高371.5m付近で直線状の落込みが確認され、土師器細片が見つかった。古墳時代の隅丸か方形の堅穴住居の可能性もあるが、既に周辺は削平されている。国道法面の立会調査と併せて見ると、黒色土は幅約1.8m以上伸びている。平成3～5年の発掘調査では堅穴住居が3棟見つかっている（金城町教育委員会編1994・第9・10図）。このうち1-a号住居・2号住居・3号住居が古墳時代で最も多く、須恵器が出土しておらず前半期と考えられる。T 10落込みの遺物も細片だがほぼ同時期頃と見られる。

遺物では古代の可能性がある平瓦片（第5図・2）が1点出土したことが注目される。凸面に一部格子状の叩き目、凹面に布目痕を残す。平成3～5年調査の1-b号住居は奈良～平安時代頃と見られ、壁際に粘土を用いたカマドを造っている。なお、中央にあったとされる炉跡は土層図では1-b号住居の埋土上にあるように見え、後出の可能性もある。柱穴群もこの時期のものを含むと見られ、遺跡全体から須恵器も出土している。

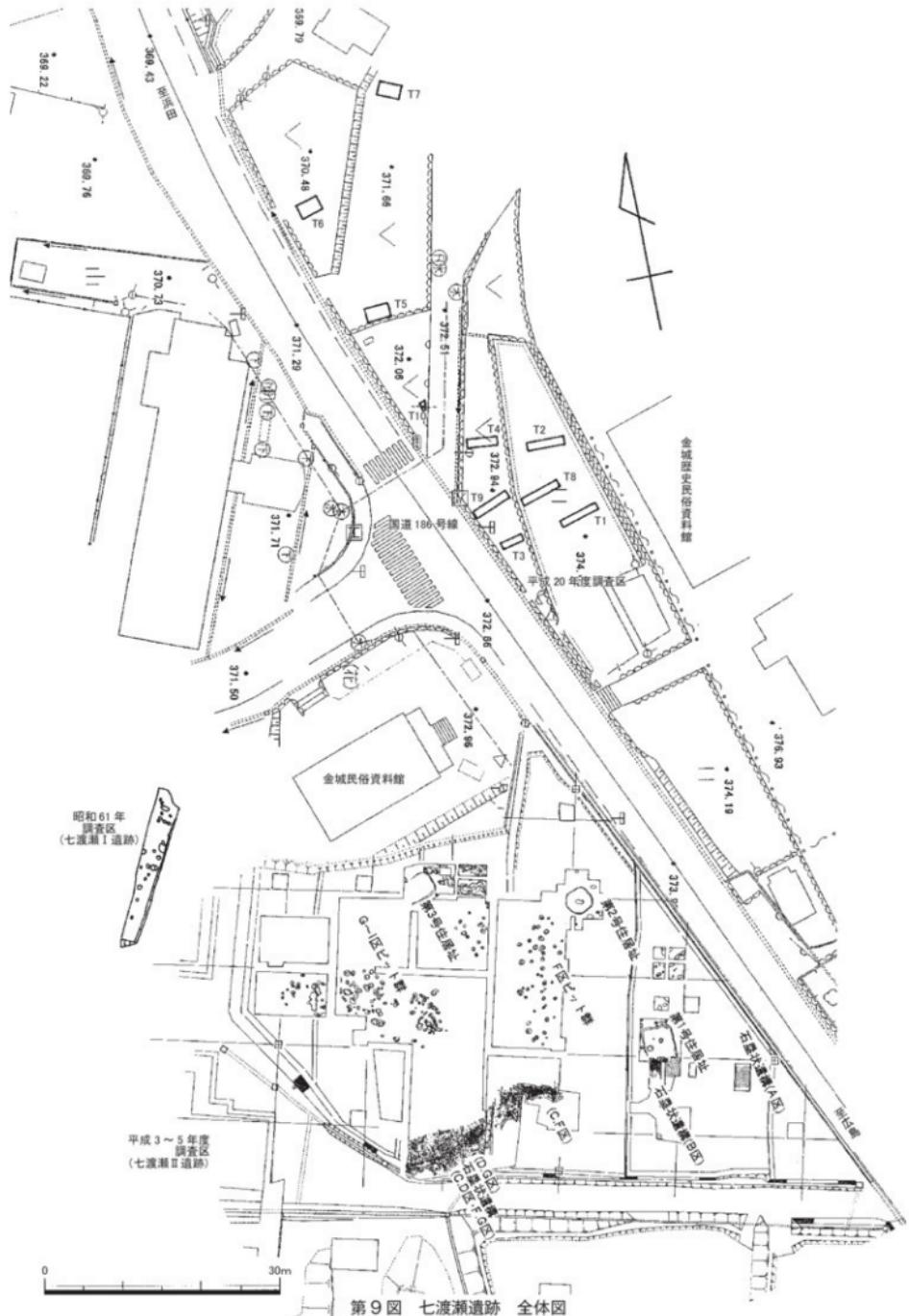
T 3の最下層（灰色粘土上）で採取した炭化物のAMS年代測定結果として、calBC 1115～935ごろ（およそ繩文時代後中期から晩期初頭）の年代が得られている（第3節参照）。これまでの調査では平成3～5年度調査区で繩文時代後中期葉の鐘崎式系土器が出土しており（金城町教育委員会編1994）、現段階での遺跡の開始時期を知ることができる。遺構の分布や遺物量からみて、遺跡の中心も平成3～5年度調査区（現在のときわ会館駐車場周辺）と考えられる。

長田地区試掘調査では、山側からの土石流が堆積する地点（T 11）と、川側の影響を受けた河原と見られる砂礫層が堆積する地点（T 12）に分けられる。遺跡は確認できなかった。長田地区的遺跡は長田川・大井谷川の西側で多く確認されており、長田郷遺跡・千年比丘1号墳・波佐一本松城跡などがある。このうち、最も遺物の多いのは今回の試掘調査地点の対岸にあたる長田郷遺跡で、城ノ前遺跡も含む範囲と見られる。長田川と支流にあたる大井谷川の合流部で南側の丘陵上には古墳時代前期の小規模円墳である千年比丘1号墳がある。

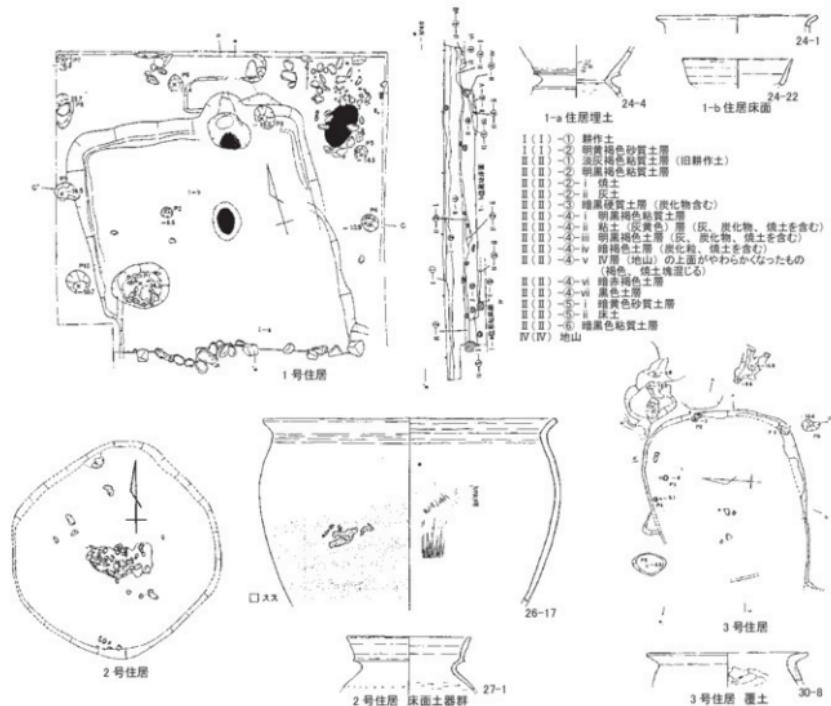
今回の調査地点周辺は遺跡の多い対岸に比べ平地が少なく、山側からの崩落・土石流が見られることから、あまり生活に適さない環境と考えられる。

#### 参考文献

- 金城町教育委員会 1986『島根県那賀郡金城町遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ－波佐・長田地区－』
- 金城町教育委員会 1987『島根県那賀郡金城町遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』
- 金城町教育委員会 1987『七渡瀬遺跡発掘調査報告書』
- 金城町教育委員会編 1994『波佐（島根県那賀郡金城町波佐地区における考古学的調査）』



第9図 七渡瀬遺跡 全体図





調査前（国道 186 号線より）



調査状況



調査前（T5・T6・T7）



T1



T1 西側土層



T2



T3



T4



T5



T6



T7



T8



T9



T10 黑色土検出状況



T10 黒色土調査後



T10



T10 西側（歩道法面）黒色土検出状況



長田地区 調査前（正面丘陵は千年比丘古墳群）



長田地区 調査前（正面は波佐一本松城）



T11



T12



出土遺物(1)



出土遺物(2)



出土遺物(3)

# 報 告 書 抄 錄

ふりがな	しまねけんはまだしいせきちばに（かなぎじく）・ななわたせにいせき							
書名	島根県浜田市遺跡地図 II (金城自治区)・七波瀬 II 遺跡							
副書名	平成 20 年度市内遺跡発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	柳原 博英							
編集機関	島根県浜田市教育委員会							
所在地	〒 697 - 8501 島根県浜田市殿町 1 番地 Tel.0855 - 22 - 2612㈹							
発行年月日	2010 年 3 月							
ふりがな 所有遺跡名  ななわたせにいせき 七波瀬 II 遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 経度	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
	島根県浜田市 金城町波佐 イ 441-3・ イ 427-2・ イ 426-4・ イ 427-1	32202	L192	34° 50' 40"	132° 07' 18"	2008.10.6 ~ 2008.10.22	66.5m <sup>2</sup>	確認調査
所収遺跡名  七波瀬 II 遺跡	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
	集落跡	弥生・古墳・ 古代・中世・近世	杭		弥生土器・土師器・ 須恵器・中世土師器	遺物細片が出土		
<p><b>要約</b></p> <p>七波瀬 II 遺跡は、金城町波佐に所在し、周布川東側の河岸段丘上に位置する。これまでの発掘調査で縄文時代後期後半～弥生時代末・古墳時代前期の堅穴住居～古代・中世の柱穴群が確認されており、波佐・長田地区の中心的遺跡とされている。弥生～中世・近現代の遺物が山廻を中心に出土したが、明確な遺構は確認できなかった。T10 では直線状の溝込みが確認され、土器部細片が見つかった。古墳時代の方形堅穴住居の可能性もあるが、既に周辺は削平されている。</p> <p>今回の調査区は遺跡の山廻部にあたり、遺跡の中心はこれまで目的的に発掘調査された地点（ときわ会館周辺）と考えられる。</p> <p>七波瀬 II 遺跡のある波佐地区よりさらに南の広島県境に接する長田地区の水田部で試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかった。</p>								

## 島根県浜田市遺跡地図 II (金城自治区)・七波瀬 II 遺跡

平成 20 年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 島根県浜田市教育委員会 2010 年 3 月

島根県浜田市殿町 1 番地

印刷 有限会社 原印刷